

英文講読 I		通年 2 単位	1年
英文を正確に読む		荒木 純子 (あらき じゅんこ)	
ねらい	語彙の増強からまとまったテキストの読み方で、英文読解の基本的なスキルを習得し、英文の内容を正確に理解できるようにすることを目標とする。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 Chapter 1-1: Unit 1-1 第3回 Chapter 1-2: Unit 1-2 第4回 Chapter 2-1: Unit 2-1 第5回 Chapter 2-2: Unit 2-2 第6回 Chapter 3-1: Unit 3-1 第7回 Chapter 3-2: Unit 3-2 第8回 Chapter 4-1: Unit 4-1 第9回 Chapter 4-2: Unit 4-2 第10回 Chapter 5-1: Unit 5-1 第11回 Chapter 5-2: Unit 5-2 第12回 Chapter 6-1 第13回 Chapter 6-2 第14回 まとめ 第15回 前期試験	【後期】 第1回 夏休みのまとめ 第2回 Chapter 7-1: Unit 6-1 第3回 Chapter 7-2: Unit 6-2 第4回 Chapter 8-1: Unit 7-1 第5回 Chapter 8-2: Unit 7-2 第6回 Chapter 9-1: Unit 8-1 第7回 Chapter 9-2: Unit 8-2 第8回 Chapter 10-1: Unit 9-1 第9回 Chapter 10-2: Unit 9-2 第10回 Chapter 11-1: Unit 9-3 第11回 Chapter 11-2: Unit 10-1 第12回 Chapter 12-1: Unit 10-2 第13回 Chapter 12-2 第14回 まとめ 第15回 後期試験	
進め方	メインテキストは環境問題に関する英語圏で出版された新聞・雑誌の記事である。これをほぼ二週間に一章ずつ訳読を進めていく。内容についての質疑応答も行う。予習の確認として課題文の内容と単語について的小テストを毎回行う。		
テキスト	<i>Save the Earth/i></i> (研究社出版) <i>The Essence of College English Grammar</i> (朝日出版)	参考文献	英和辞典を持参すること。その他、授業中に指示する。
評価方法	前期試験:30% 後期試験:30% 毎週の小テスト:30% 夏休み課題:10%		

英文講読 I		通年 2 単位	1年
ローラ・インガルス・ワイルダーの自伝的小説を、確実に文法を理解しつつ、読む		加納 孝代 (かのう たかよ)	
ねらい	比較的平易な表現で書かれた、アメリカ開拓時代の小説「大草原の小さな家」シリーズ中の、These Happy Golden Years を読む。文章の構造をつかみ、基本的な文法事項を確認しながら、細部までの正確な理解を期して読み進める。		
授業計画	【前期】 第1回 Laura Leaves Home その1 第2回 Laura Leaves Home その2 第3回 Laura Leaves Home その3 第4回 First Day of School その1 第5回 First Day of School その2 第6回 First Day of School その3 第7回 One Week その1 第8回 One Week その2 第9回 One Week その3 第10回 Sleigh Bells その1 第11回 Sleigh Bells その2 第12回 Sleigh Bells その3 第13回 Sleigh Bells その4 第14回 Sleigh Bells その5 第15回 前期末試験	【後期】 第1回 Cold Ride その1 第2回 Cold Ride その2 第3回 Barnum Walks その1 第4回 Barnum Walks その2 第5回 The Night Before Christmas その1 第6回 The Night Before Christmas その2 第7回 Teachers' Examinations その1 第8回 Teachers' Examinations その2 第9回 Wedding Plans その1 第10回 Wedding Plans その2 第11回 Little Gray Home in the West その1 第12回 Little Gray Home in the West その2 第13回 Little Gray Home in the West その3 第14回 Little Gray Home in the West その4 第15回 後期末試験	
進め方	予習は必須。毎回音読を重視。意味を把握するだけでなく、それを過不足のない日本語で表現した訳文にまで仕上げることがめざす。前回に進んだところの復習の小テストを、毎回授業開始時に行うので、遅刻しないこと。		
テキスト	ローラ・インガルス・ワイルダー：「ローラの青春」(成美堂)	参考文献	随時指示
評価方法	小テスト:60% 期末試験:40%		

英文講読 I		通年 2 単位	1年
(Un) Learning from the US History		齋藤 修三 (さいとう しゅうぞう)	
ねらい	語彙の増強からまとまったテキストの読み方まで、英文読解の基本的なスキルを習得し、英文の内容を正確に理解できるようになることを目標とする。内容面では、合衆国の来し方行く末を多民族・多文化の視点から見つめ直す。		
授業計画	【前期】 第1回 授業概説～Japanese-Americans (1) 第2回 Japanese-Americans (1) 第3回 Japanese-Americans (1) 第4回 Chinese-Americans 第5回 Chinese-Americans 第6回 Chinese-Americans 第7回 Irish-Americans 第8回 Irish-Americans 第9回 Irish-Americans 第10回 Native-Americans 第11回 Native-Americans 第12回 Native-Americans 第13回 German-Americans 第14回 German-Americans 第15回 前期まとめ	【後期】 第1回 Korean-Americans 第2回 Korean-Americans 第3回 Korean-Americans 第4回 African-Americans 第5回 African-Americans 第6回 African-Americans 第7回 Mexican Immigrants 第8回 Mexican Immigrants 第9回 Mexican Immigrants 第10回 Cuban-Americans 第11回 Cuban-Americans 第12回 Cuban-Americans 第13回 Arab-Americans 第14回 Arab-Americans 第15回 後期まとめ	
進め方	予習は必須。音読・訳読・解釈の訓練や内容についての議論が中心となる。単元終了毎に単語テストを行う。		
テキスト	Kawamura & Muraskin, <i>Ethnic Minorities in the U. S. A.</i> , Seibido. 野村達朗『民族で読むアメリカ』講談社現代新書, 以上2点。	参考文献	ロナルド・タカキ『多文化社会アメリカの歴史——別の鏡に映して』明石書店
評価方法	前後期まとめテスト:50% 単元毎の単語テスト:20% 出席・議論への参加度:30%		

英文講読 I		通年 2 単位	1年
英語の基本的仕組み		湯本 久美子 (ゆもと くみこ)	
ねらい	語彙の増強からまとまったテキストの読み方まで、英文読解の基本的なスキルを習得し、英文の内容を正確に理解できるようになることを目的とします。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション / Unit 1 単語テスト (英→和) 第2回 Unit 1 単語テスト (和→英) 第3回 Unit 2 単語テスト (英→和) 第4回 Unit 2 単語テスト (和→英) 第5回 Unit 3 単語テスト (英→和) 第6回 Unit 3 単語テスト (和→英) 第7回 Unit 4 単語テスト (英→和) 第8回 Unit 4 単語テスト (和→英) 第9回 Unit 5 単語テスト (英→和) 第10回 Unit 5 単語テスト (和→英) 第11回 Unit 6 単語テスト (英→和) 第12回 Unit 6 単語テスト (和→英) 第13回 まとめ1 第14回 まとめ2 第15回 定期試験	【後期】 第1回 Unit 7 単語テスト (英→和) 第2回 Unit 7 単語テスト (和→英) 第3回 Unit 8 単語テスト (英→和) 第4回 Unit 8 単語テスト (和→英) 第5回 Unit 9 単語テスト (英→和) 第6回 Unit 9 単語テスト (和→英) 第7回 Unit 10 単語テスト (英→和) 第8回 Unit 10 単語テスト (和→英) 第9回 Unit 11 単語テスト (英→和) 第10回 Unit 11 単語テスト (和→英) 第11回 Unit 12 単語テスト (英→和) 第12回 Unit 12 単語テスト (和→英) 第13回 まとめ1 第14回 まとめ2 第15回 定期試験	
進め方	「予習を必須」とし、クラスでは疑問点を皆で解決していくという進め方をとります。毎回授業のはじめにReading部分の単語クイズを行います。毎ユニット、文法項目を確認してから読解へと進みます。「学習用」英和辞書を持参のこと。		
テキスト	山内信幸・北林利治. 2006. 『Ins & Outs-文法中心のパラグラフリーディング 正しい英語の読み方』金星堂	参考文献	必要に応じて授業中に適宜紹介します。
評価方法	期末試験:50% 平常点 クイズ・出席・授業態度:50%		

英文講読Ⅱ		通年 2 単位	2年
国際化時代の他文化理解		高橋 教雄 (たかはし のりお)	
ねらい	世界の代表のお祭りや儀式を紹介する英文を精読し、他文化を正しく理解する能力を身につける。同時に、英語の文構造や語彙について確認し、理解を深める。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション・Chinese New Year (1) 第2回 Chinese New Year (2) 第3回 St. Valentine's Day (1) 第4回 St. Valentine's Day (2)・Brazilian Carnival (1) 第5回 Brazilian Carnival (2) 第6回 St. Patrick's Day (1) 第7回 St. Patrick's Day (2)・プリント教材 第8回 プリント教材 第9回 プリント教材 第10回 Doll Festival (1) 第11回 Doll Festival (2)・Bullfighting (1) 第12回 Bullfighting (2) 第13回 プリント教材 第14回 プリント教材 第15回 前期末試験	【後期】 第1回 Day of German Unity (1) 第2回 Day of German Unity (2)・Breaking of Fast Day (1) 第3回 Breaking of Fast Day (2) 第4回 Thanksgiving (1) 第5回 Thanksgiving (2)・プリント教材 第6回 プリント教材 第7回 プリント教材 第8回 Christmas (1) 第9回 Christmas (2)・Australia Day (1) 第10回 Australia Day (2) 第11回 India's Republic Day (1) 第12回 India's Republic Day (2)・プリント教材 第13回 プリント教材 第14回 プリント教材 第15回 後期末試験	
進め方	テキストの精読と、関連する常識的事項の確認を中心とする。語彙に関する小テストを随時行う。十分な予習をして授業に臨むこと。様子を見て、随時課題提出を求める場合がある。		
テキスト	Rong Zhang & Jeffrey Mok 著 <i>CELEBRATING AROUND THE WORLD</i> (研究社)	参考文献	プリント教材等、授業時に適宜指示する。
評価方法	前・後期末試験:70% 小テスト(提出課題):20% 授業参加・発表:10%		

英文講読Ⅱ		通年 2 単位	2年
イギリスの歴史と英語文化のルーツ		竹中 豊 (たけなか ゆたか)	
ねらい	平易な英語とイラストを通して、楽しみながらイギリスの歴史を探ります。また、英語文化のルーツとして、イギリスのもつ多面的な魅力も学んでいきます。英語力のみならず、その背後にある歴史・文化をともに考えていくことがねらいです。		
授業計画	【前期】 第1回 Britain and British history 第2回 Britain in Anglo-Saxon times 第3回 The Normans-1 第4回 The Norman-2 第5回 The Plantagenets-1 第6回 The Plantagenets-2 第7回 The Church in the Middle Ages-1 第8回 The Church in the Middle Ages-2 第9回 The medieval economy-1 第10回 The medieval economy-2 第11回 The early Tudors-1 第12回 The early Tudor-2 第13回 The later Tudor-1 第14回 The later Tudor-2 第15回 定期試験	【後期】 第1回 The history of Great Britain in perspective 第2回 The early Stuarts-1 第3回 The early Stuarts-2 第4回 The Agricultural Revolution 第5回 The Commercial Revolution 第6回 The early 18th century-1 第7回 The early 18th century-2 第8回 The later 18th century-1 第9回 The later 18th century-2 第10回 The Industrial Revolution-1 第11回 The Industrial Revolution-2 第12回 19th century foreign affairs-1 第13回 19th century foreign affairs-2 第14回 19th century foreign affairs-3 第15回 定期試験	
進め方	(1) 翻訳を主な目的とせず、あくまで内容理解に重点をおいてすすめます。歴史的な背景や専門用語は、毎回、説明を加えます。(2) 音読に際しては、正しい発音を厳しく指導していきます。(3) 現代英語にも馴染む意味で、毎回、flash newsに少しふれてみます。		
テキスト	Antonia Cunningham, <i>Essential British History</i> , Kaibunsha, 1991.	参考文献	
評価方法	平常点(含・出席):50% 定期試験:50%		

英文講読Ⅱ		通年 2 単位	2年
現代の様々な側面を英文で読み解く		中嶋 幸子（なかじま ゆきこ）	
ねらい	英文の読解力を質的にも量的にも高めることを目指します。どのような文章に接しても、それぞれに応じて、その特徴を迅速に理解し、その内容を的確に読みとることができる、柔軟な読解力を養いたい。文法や語彙の説明、確認も行いますが、その先の、内容の十分な理解を重視します。		
授業計画	【前期】 第1回 “Welcome to the E-Mail Combat Zone” 第2回 “Welcome to the E-Mail Combat Zone” 第3回 “Monogram Man” (1) 第4回 “Monogram Man” (1) and (2) 第5回 “Monogram Man” (2) 第6回 “Beckham Is the Most Influential Man in he UK” 第7回 “Undeclared” 第8回 “In Any Test of Human Limits, Death Is Among ……” 第9回 “In Any Test of Human Limits, Death Is Among ……” 第10回 “The Siren Call of Blond Power” (1) 第11回 “The Siren Call of Blond Power” (1) and (2) 第12回 “The Siren Call of Blond Power” (2) 第13回 “Urban Outfitters” 第14回 “Urban Outfitters” 第15回 定期試験	【後期】 第1回 “9/11: Finding Utility and Respect in ……” 第2回 “9/11: Finding Utility and Respect in ……” 第3回 “America’s Real Identity Crisis” 第4回 “America’s Real Identity Crisis” 第5回 “Superiority Complex” (1) 第6回 “Superiority Complex” (1) 第7回 “Superiority Complex” (2) 第8回 “Superiority Complex” (2) 第9回 “Campus Hate Parade” 第10回 “Sims Family Values” (1) 第11回 “Sims Family Values” (1) and (2) 第12回 “Sims Family Values” (2) 第13回 “Women MBAs Lead Way to the Future” 第14回 “Wemen MBAs Lead Way to the Future” 第15回 定期試験	
進め方	毎回のていねいな予習が前提です。授業は、英文の訳読が中心となりますが、文章を音読して英語の発音も確認します。また、訳読に先立って、ページ毎の大意の要約や、テキストの朗読を聴いてのリスニングコンプリヘンションを行います。担当者による訳や説明、コメントの発表の他に、内容の確認と読み込みを深めるための質問に応じてもらいます。		
テキスト	H. Natume and S. Kawahara eds., <i>World Outlook</i> (Asahi Press)	参考文献	
評価方法	定期試験:60% 平常点:30% 出席:10%		

英文講読Ⅱ		通年 2 単位	2年
英文読解と問題考察力をつなげる		山田 美穂子（やまだ みほこ）	
ねらい	英字新聞からの抜粋記事を題材に現在日本のさまざまな社会問題について読み、考察を深める。より深い問題理解に必要なレベルの語彙・文法を身につけ、英語による意見の発信を目指す。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション 実力判断テスト 第2回 Part1 Family Ties (家族の絆) Chapter1 第3回 Chapter 2 第4回 Chapter 3 第5回 Chapter 4 第6回 Chapter5 第7回 Part1 まとめ 第8回 中間テスト 第9回 Part2 Educational Problem (教育問題) Chapter1 第10回 Chapter2 第11回 Chapter3 第12回 Chapter4 第13回 Chapter5 第14回 Part2 まとめ 第15回 前期期末テスト	【後期】 第1回 Part3 Work And Life (仕事と人生) Chapter1 第2回 Chapter2 第3回 Chapter3 第4回 Chapter4 第5回 Chapter5 第6回 Part3 まとめ 第7回 中間テスト 第8回 Part4 Social Problems (社会問題) Chapter1 第9回 Chapter2 第10回 Chapter3 第11回 Chapter4 第12回 Chapter5 第13回 Part4 まとめ 第14回 追加課題 第15回 後期期末試験	
進め方	1回の授業でテキストの1課、全員で内容把握の確認と語彙・構文の確認を行うので、予習を必ずしてくる。適宜配布する追加課題で語彙と関連知識の増強をはかる。パート終了ごとに中間テストを実施し（受験必須）、進捗を確認する。各期末に筆記試験を行う。		
テキスト	『Contemporary Issues in Japanese Society 日本 の今を考える』（英宝社）	参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	中間テスト:20% 出席数:30% 前後期期末テスト:50%		

英語表現法		通年 2 単位	1年
パラグラフ・ライティング入門		内田 有紀 (うちだ ゆうき)	
ねらい	それぞれ関心を持っているトピックについて書くことを繰り返ししながら、パラグラフ・ライティングの基礎を学んでいきたいと思えます。まずは英語を書くという行為に慣れること、それから構成のしっかりした英文とは何かという問題について繰り返し考えながら、少しずつそれに近づいていきたいと思えます。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス、書くための道具、パラグラフ、自己紹介文 第2回 プレイン・ストーミングとアウトライン (課題1) 第3回 書く際の注意、ドラフティング (課題1) 第4回 課題1の提出、グラマー・クリニック、訂正のサイン 第5回 プレイン・ストーミングとアウトライン (課題2) 第6回 ドラフティング (課題2) 第7回 ビア・レビューとリヴィジョン (課題2) 第8回 課題2の提出、グラマー・クリニック、複数のパラグラフ 第9回 プレイン・ストーミングとアウトライン (課題3) 第10回 ドラフティング (課題3) 第11回 ビア・レビューとリヴィジョン (課題3) 第12回 課題3の提出、グラマー・クリニック 第13回 課題を発表する 第14回 課題を発表する (続き) 第15回 課題を発表する (続き)	【後期】 第1回 プレイン・ストーミングとアウトライン (課題5) 第2回 ドラフティング (課題5) 第3回 ビア・レビューとリヴィジョン (課題5) 第4回 課題5の提出、グラマー・クリニック 第5回 プレイン・ストーミングとアウトライン (課題6) 第6回 ドラフティング (課題6) 第7回 ビア・レビューとリヴィジョン (課題6) 第8回 課題6の提出、グラマー・クリニック 第9回 プレイン・ストーミングとアウトライン (課題7) 第10回 ドラフティング (課題7) 第11回 ビア・レビューとリヴィジョン (課題7) 第12回 課題7の提出、グラマー・クリニック 第13回 課題を発表する 第14回 課題を発表する (続き) 第15回 課題を発表する (続き)	
進め方	課題ごとにサンプルとなる例文を読み、目的とやり方を解説してから、実際にライティングの作業を行なってもらいます。それぞれの作業の途中経過を確認しながら、より良くするための提案を行ないます。課題の仕上げは宿題としてやってもらうこともあります。出来上がった課題には添削とコメントを加えます。授業計画は状況に応じて変化します。		
テキスト	Yoshihito Sugita and Richard R. Caraker, <i>Primary Course on Paragraph Writing.</i> 成美堂	参考文献	適宜、指示します。和英辞典は毎回持参すること。
評価方法	出席状況:20% 授業への参加態度:40% 課題:40%		

英語表現法		通年 2 単位	1年
英語らしい表現を目指して		江田 優子 (こうだ ゆうこ)	
ねらい	本講では、英語と日本語の発想の違いに注意しながら英作文ができるように指導します。まず、自分の言いたいことを表現するのに必要な文法事項を整理します。さらに、発信に必要なシンプルな英文に接し、英語と日本語のニュアンスの違いを学びます。また、英語エッセイに頻繁に使われるパターンを学び、パラグラフライティングの演習を行います。		
授業計画	【前期】 第1回 Introduction 第2回 品詞と文の要素 第3回 SV00/SVOC 第4回 Topic Sentence of the Paragraph 1 第5回 Topic Sentence of the Paragraph 2 第6回 時制 第7回 進行形・完了形・完了進行形 第8回 Time Order 1 第9回 Time Order 2 第10回 受動態 第11回 仮定法 第12回 Classification 1 第13回 Classification 2 第14回 Review 第15回 期末試験	【後期】 第1回 前期試験の講評と今後の予定について 第2回 不定詞 第3回 比較 第4回 Comparison 1 第5回 Comparison 2 第6回 接続詞 第7回 関係代名詞 第8回 Cause & Effect 1 第9回 Cause & Effect 2 第10回 否定 第11回 動名詞 第12回 映画の会話表現 1 第13回 映画の会話表現 2 第14回 Review 第15回 期末試験	
進め方	文法では、1回の授業で教科書の1課分をめどに進めていきます。英文のパターンについてはそのつど教材を配布。各パターンでタスクを課します。毎回授業の終わりに英訳の小テストを行います。		
テキスト	<i>Writing Gear</i> (金星堂)	参考文献	英和・和英辞典を持参のこと。(電子辞書可)
評価方法	出席:20% 授業参加度、タスク:40% 期末試験:40%		

英語表現法		通年 2 単位	1年
効果的なパラグラフの書き方		下澤 礼子 (しもざわ れいこ)	
ねらい	英語での論理的思考や表現を学びながら、さまざまなパラグラフが書けるようになることを目的とします。		
授業計画	【前期】 第1回 Introductions: "About Myself" 第2回 The Writing Process 第3回 Paragraph (1) 第4回 Paragraph (2) 第5回 Topic Sentence (1) 第6回 Topic Sentence (2) 第7回 Supporting Sentences (1) 第8回 Supporting Sentences (2) 第9回 Time Order (1) 第10回 Time Order (2) 第11回 Space Order (1) 第12回 Space Order (2) 第13回 Process and Direction (1) 第14回 Process and Direction (2) 第15回 定期試験	【後期】 第1回 Cause and Effect (1) 第2回 Cause and Effect (2) 第3回 Examples (1) 第4回 Examples (2) 第5回 Definition (1) 第6回 Definition (2) 第7回 Classification (1) 第8回 Classification (2) 第9回 Comparison and Contrast (1) 第10回 Comparison and Contrast (2) 第11回 Presentations (1) 第12回 Presentations (2) 第13回 Presentations (3) 第14回 Review 第15回 定期試験	
進め方	テキストに沿って、さまざまなパラグラフについて学びながら、授業内外の課題を通して書く作業を進めます。質の高いアウトプット（パラグラフ）には、質の高いインプットが必要となるため、英語の他の3技能を多角的に高めるアクティビティーにも取り組めます。授業では毎回、語彙テスト、journal writing, silent readingも実施します。		
テキスト	<i>Get Your Message Across</i> (南雲堂)	参考文献	週刊ST、英和和英辞典（可能ならば英英辞典も入っている電子辞書）を毎回持参
評価方法	定期試験:30% 課題提出・語彙テスト:40% 授業への参加:20% 出席:10%		

英語表現法		通年 2 単位	1年
システムとしての言語		菅野 昌彦 (すがの まさひこ)	
ねらい	現在、数千もの言語が地球上に存在するといわれています。それらの言語に共通する一定のルールが存在するという観点から授業を進めて行きたいです。クラスでは日本語と英語に焦点を合わせ、両言語に存在する相違点・類似点を観察し、いかに言語がシステムティックなものなのかを解説していきたいです。		
授業計画	【前期】 第1回 guidance 第2回 freewriting 第3回 brainstorming 第4回 outlining 第5回 paragraph order 第6回 cohesion 第7回 point of view 第8回 basic structure of paragraph 第9回 paragraph writing 第10回 structure of essay 第11回 how to write introduction 第12回 how to write supporting paragraph 第13回 how to write conclusion 第14回 review 第15回 test	【後期】 第1回 guidance 第2回 practice 第3回 practice 第4回 practice 第5回 practice 第6回 practice 第7回 practice 第8回 practice 第9回 practice 第10回 practice 第11回 practice 第12回 practice 第13回 practice 第14回 review 第15回 test	
進め方	ライティングは非常に根気のいる作業です。授業について分からない点があった場合、その日のうちに解決していただきたいです。質問し易い雰囲気を作るよう私自身努力しますし、質問イコール私へのフィードバックと考えています。		
テキスト	プリント使用	参考文献	特に無し
評価方法	出席率:10% 試験:90%		

英語表現法		通年 2 単位	1年
文法事項の確認を通して着実な英語表現能力を身につける		高橋 教雄 (たかはし のりお)	
ねらい	自分の意見・考えを自由に英語で表現できるようになることが理想ですが、そのためには表現の基本的単位である文を正確に使いこなす能力が求められます。文の基本構造を正確に把握することから始め、学習した事項を使いこなすことができるよう練習を積み重ねていきます。		
授業計画	【前期】 第1回 主語・目的語・補語の確認と練習問題 第2回 主語・目的語・補語の確認と練習問題 第3回 動詞と文型の確認と練習問題 第4回 動詞と文型の確認と練習問題 第5回 時制の確認と練習問題 第6回 時制の確認と練習問題 第7回 相（進行相・完了相）の確認と練習問題 第8回 相（進行相・完了相）の確認と練習問題 第9回 不定詞の確認と練習問題 第10回 不定詞の確認と練習問題 第11回 動名詞の確認と練習問題 第12回 動名詞の確認と練習問題 第13回 分詞（現在分詞・過去分詞）の確認と練習問題 第14回 分詞（現在分詞・過去分詞）の確認と練習問題 第15回 前期末試験	【後期】 第1回 助動詞の確認と練習問題 第2回 助動詞の確認と練習問題 第3回 態（能動態・受動態）の確認と練習問題 第4回 態（能動態・受動態）の確認と練習問題 第5回 仮定法の確認と練習問題 第6回 仮定法の確認と練習問題 第7回 形容詞的修飾語句・副詞的修飾語句の確認と練習問題 第8回 比較（原級・比較級・最上級）の確認と練習問題 第9回 比較（原級・比較級・最上級）の確認と練習問題 第10回 等位接続・従位接続の確認と練習問題 第11回 等位接続・従位接続の確認と練習問題 第12回 名詞構文・無生物主語・there 構文等の確認と練習問題 第13回 名詞構文・無生物主語・there 構文等の確認と練習問題 第14回 名詞構文・無生物主語・there 構文等の確認と練習問題 第15回 後期末試験	
進め方	英文構造の基本事項を確認し、その確認事項を使う能力を確実に身につけるための練習問題を積み重ねていきます。また、語彙の小テストを随時行い、表現能力の発展と向上を目指します。		
テキスト	山内信幸・赤楚治之・北林利治 著 『文法から攻める英作文のための15章』（英宝社）	参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	前・後期末試験:60% 小テスト:20% 授業参加・発表:20%		

英語表現法		通年 2 単位	1年
英語での自己表現		田村 道子 (たむら みちこ)	
ねらい	話したい、書きたい事があっても十分な英語力がないため相手に伝わらない現状を踏まえ、基本的な文法知識を確認しながら作文力を向上させ、やがてはエッセイを書く時に役立つパラグラフ単位の作文が出来る様にする		
授業計画	【前期】 第1回 授業の説明と自由英作文 第2回 文の種類 第3回 動詞の種類と文型 第4回 復習とミニテスト 第5回 動詞の時制 第6回 助動詞 第7回 復習とミニテスト 第8回 受動態 第9回 名詞 第10回 復習とミニテスト 第11回 冠詞と数詞 第12回 代名詞 第13回 復習とミニテスト 第14回 接続詞 第15回 レポート提出または期末テスト	【後期】 第1回 前期の文法復習 自由英作文 第2回 前置詞 第3回 形容詞 第4回 副詞 第5回 比較 第6回 不定詞 第7回 復習とミニテスト 第8回 分詞 第9回 動名詞 第10回 関係詞 第11回 仮定法 第12回 時制の一致 第13回 復習とミニテスト 第14回 語法 第15回 期末テストまたはレポート提出	
進め方	教科書の他にプリント配布。プリントは自学用で答え合わせとミニテストと言う形で使い、予習を前提の授業をする。予習復習は必須。原則として2章毎にミニテスト。後半は英文のエッセイの書き方も学ぶ。授業の進め方は学生の理解度、興味などに柔軟に対応変化させて行きたい。		
テキスト	「大学生のための総合英語」南雲堂書店	参考文献	英和和英の辞書を持参の事、電子辞書も可
評価方法	出席:10% ミニテスト:20% 予習:10% 提出物:10% 期末テスト又はレポート(未定):50%		

Introductory College English I	通年 2 単位	1年
Listening and Speaking		
<p>【担当教員】 ヴァシリエヴィッチ (VASILJEVIC, Z.)、オクマ (OKUMA, G. S.)、カリガン (CULLIGAN, B. A.)、シミズ (SHIMIZU, M. M.)、ハンド イェヴァウエラー (HANDJEVA-WELLER,)、フィリップス (PHILLIPS, J. R.)、ペンゴスロ (PENGOSRO, E. K.) ねらい This course aims to improve students' listening and speaking skills in an efficient way. The course is designed around a core vocabulary of 240 essential words. This vocabulary is incorporated into homework and class work exercises that focus on topics familiar and interesting to students. In order to make the most of classroom time, homework will focus on listening, and the class will focus on communicative exchanges between and among students.</p> <p>授業計画 First Semester Week 1 Course Goals and Objectives Week 2 Unit 1: Talking about Introductions Week 3 Unit 2: Talking about Family Week 4 Unit 3: Talking about Movies Week 5 Unit 4: Talking about Directions Week 6 Becoming an independent learner; Review; Prepare for Test 1 Week 7 Test 1 Week 8 Unit 5: Talking about Travel Week 9 Unit 6: Talking about Recipes Week 10 Unit 7: Talking about Health Week 11 Unit 8: Talking about Making a Speech Week 12 Review; Prepare for Test 2 Week 13 Test 2</p> <p>Second Semester Week 14 Summer Vacation Speeches Week 15 Unit 9: Talking about Music Week 16 Unit 10: Talking about Friends Week 17 Unit 11: Talking about Money and Jobs Week 18 Unit 12: Talking about Superstitions Week 19 Expressing Opinions; Review; Prepare for Test 3 Week 20 Test 3 Week 21 IP TOEIC Listening Week 22 Unit 13: Talking about Sports Week 23 Unit 14: Talking about the News Week 24 Unit 15: Talking about Fashion Week 25 Unit 16: Talking about the Past and Future Week 26 One-minute presentations; Review; Prepare for Test 4 Week 27 Test 4</p> <p>進め方 Each week, you will practice dictation, listening comprehension and discussion with a partner and in small groups. In addition, you will do homework each week consisting of vocabulary and listening exercises. There will also be TOEIC quizzes designed to help you improve your score on the TOEIC and vocabulary quizzes to help you remember new words.</p> <p>テキスト Booklet</p> <p>評価方法 Your grade for this course will be based on the following: Tests 50% テストの点数は、4回のテスト結果を高得点順にして、その上位3つの平均点になります。 Participation/Homework 20% Vocabulary Quizzes 20% presentations and Speeches 10%</p> <p>授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分 未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない 場合はこの授業の成績は「不合格」となります。</p>		

Introductory College English II	通年 2 単位	1年
Writing		
【担当教員】		
ヴァシリエヴィッチ (VASILJEVIC, Z.)、オクマ (OKUMA, G. S.)、カリガン (CULLIGAN, B. A.)、カーン (KERN, D. L.)、サノ (SANO, K. M.)、シミズ (SHIMIZU, M. M.)、ハンドイエヴァウェラー (HANDJEVA-WELLER,)、ペンゴスロ (PENGOSRO, E. K.)、マーフィー (MURPHY, D. F.)		
ねらい		
In this course, you will focus on writing paragraphs. By the end of the course, you will be able to write several styles of paragraphs on a variety of topics. You will focus on form, with a particular emphasis on the nature of a paragraph, the topic sentence, supporting sentences, the concluding sentence, transitions, unity, and sentence combining.		
授業計画		
First Semester		
Week 1	Teacher and Course Introduction; Outline and Paragraph Format	
Week 2	Simple and Compound Sentences; Coordinating Conjunctions	
Week 3	3 Parts of a Paragraph; Topic Sentences; Paragraph Unity	
Week 4	Supporting Sentences; Concluding Sentences; Outlines	
Week 5	Sample Test; Transition Signals; Outlines	
Week 6	Test 1	
Week 7	Time-Order Outline and Paragraph; Adjectives and Adverbs	
Week 8	Additional work on Outlines; Concluding Sentences	
Week 9	Space Order Outline and Paragraph; Error Paragraph 1	
Week 10	Rewriting; Space Order	
Week 11	Rewriting; Error Paragraph 2	
Week 12	Review	
Week 13	Test 2	
Second Semester		
Week 14	Listing Order (Process) Outline and Paragraph; Transition Signals	
Week 15	Listing Order (Comparison) Outline and Paragraph; Error Paragraph 3	
Week 16	Clauses and Subordinate Conjunctions; Complex Sentences and Fragments	
Week 17	Paragraph Writing	
Week 18	Stating Reasons and Giving Examples; Review Listing Order Paragraphs	
Week 19	Test 3	
Week 20	Opinion Outline and Paragraph; Facts and Opinions	
Week 21	Opinion Paragraph and Opinion Transition Signals	
Week 22	Introduction to Opinion/Reaction Paragraph; Paraphrasing Exercises	
Week 23	Opinion/Reaction Main-Point Questions; Error Paragraph 4; Paragraph Writing	
Week 24	Main-Point Questions; Topic Sentences; Opinion/Reaction Outline	
Week 25	Peer Review on Opinion/Reaction Paragraph	
Week 26	Paragraph Writing/Test Preparation; Course Evaluation	
Week 27	Test 4	
進め方		
You will explore the writing process through the techniques of brainstorming, narrowing a topic, outlining, sequencing, and providing evidence and examples. For weekly homework, you will write an outline and/or a paragraph based on a topic sentence set by your teacher. Your teacher will correct your work and return it; you will rewrite the paragraph based on your teacher's comments and corrections.		
テキスト		
First Steps in Academic Writing		
Booklet		
評価方法		
Your grade for this course will be based on the following:		
Tests 50% テストの点数は、4回のテスト結果を高得点順にして、その上位3つの平均点になります。		
Paragraph Assignments 40%		
Homework and Class Participation 10%		
Paragraphs and outlines must be handed in on time. Late paragraphs and outlines will receive a grade of zero.		
授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない場合はこの授業の成績は「不合格」となります。		

Introductory College EnglishIII	通年 2 単位	1年
Reading		
<p>【担当教員】 ヴァシリエヴィッチ (VASILJEVIC, Z.)、カリガン (CULLIGAN, B. A.)、カーン (KERN, D. L.)、サノ (SANO, K. M.)、シミズ (SHIMIZU, M. M.)、ハンドイエヴァウエラー (HANDJEVA-WELLER,)、フィリップス (PHILLIPS, J. R.)、ペンゴスロ (PENGOSRO, E. K.)、ホワイト (WHYTE, D. W.)、リムスコグ (RIMSKOG, Christa)</p> <p>ねらい In this course, you will participate in a student-centered process approach to develop your reading skills. You will learn specific reading strategies, including skimming and scanning, previewing and predicting, guessing meanings of unknown words in context, making inferences, and identifying main ideas and patterns of organization. You will also do extensive reading exercises. During extensive reading, you will apply your developing reading skills by selecting and reading books that match your interests. Finally, you will practice speed-reading to develop accuracy and fluency. Your reading speed will increase through timed readings of passages controlled for vocabulary and sentence structure.</p> <p>授業計画 First Semester Week 1 Introduction Week 2 Speed Reading and Skimming Week 3 Scanning and Thinking Skills Week 4 Previewing and Predicting Week 5 Making Predictions and Guessing Word Meaning Week 6 Review Week 7 Test 1 Week 8 Looking for the Topic Week 9 Skimming and Review Week 10 Pronouns and Synonyms Week 11 Synonyms and Reading Comprehension Week 12 What is a Paragraph? Review For Test 2 Week 13 Test 2</p> <p>Second Semester Week 14 What is the Topic and Main Idea? Week 15 Patterns of Organization Week 16 Paragraph Pattern - Listing Order Week 17 Paragraph Pattern - Cause and Effect Week 18 Skimming and Scanning Review Week 19 Test 3 Week 20 Paragraph Pattern - Time Order Week 21 IP TOEIC Reading Section Week 22 Paragraph Pattern- Comparison/Contrast Week 23 Speech Contest 2nd period; PM classes: Book Discussion 'Cries from the Heart' Week 24 Book Discussion 'Cries from the Heart' Week 25 Making Inferences Week 26 Making Inferences (continued) Week 27 Test 4</p> <p>進め方 Each week, you will practice reading exercises of three types, namely: extensive reading, reading skills and speed-reading.</p> <p>テキスト Booklet</p> <p>評価方法 Your grade for this course will be based on the following: Tests 70% テストの点数は、4回のテスト結果を高得点順にして、その上位3つの平均点になります。 Graded Reader Reports 20% Attendance Participation and Homework 10%</p> <p>授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない場合はこの授業の成績は「不合格」となります。</p>		

Intermediate CollegeEnglish	通年 2 単位	2年
INCH		
<p>【担当教員】 ヴァシリエヴィッチ (VASILJEVIC, Z.)、カリガン (CULLIGAN, B. A.)、シミズ (SHIMIZU, M. M.)、ハンドイエヴァウエラー (HANDJEVA-WELLER,)、フィリップス (PHILLIPS, J. R.)、ホワイト (WHYTE, D. W.) ねらい In this course, you will make use of the English you already know and continue to develop the reading and discussion skills you learned last year. During the year, you will concentrate on four broad issues that face the world today. Each week, you will read in depth one or more articles relating to a particular issue. You will then prepare to discuss the questions raised by this article in class. For each of the four broad areas covered, you will be responsible for finding a related article and summarizing and explaining it, and your opinions on it, to your classmates.</p> <p>授業計画 First Semester Week 1 Introduction - Minamata Week 2 Minamata Week 3 Water Week 4 Water - Fast Food Week 5 Fast Food Week 6 Unit 1 - News Report Presentations Week 7 Comprehension Test 1 - Discussion Test 1 Week 8 Parasite Singles Week 9 Parasite Singles - Charity Week 10 Charity - HIV/AIDS Week 11 HIV/AIDS Week 12 Unit 2 - News Report Presentations Week 13 Comprehension Test 2 - Discussion Test 2</p> <p>Second Semester Week 14 Smoking Week 15 Smoking - Organ Donation Week 16 Organ Donation Week 17 Cloning Week 18 Unit 3 - News Report Presentations Week 19 Comprehension Test 3 - Discussion Test 3 Week 20 TOEIC Week 21 TOEIC Week 22 Work (Japan) Week 23 Work (Japan) - Work (Japan and Abroad) Week 24 Work (Japan and Abroad) Week 25 Review for Test 4 Week 26 Unit 4 - News Report Presentations Week 27 Comprehension Test 4 - Discussion Test 4</p> <p>進め方 For homework, there will be one or two articles to read followed by vocabulary and comprehension questions. The teacher and students will discuss the articles in class and go over the questions raised in the homework. Following this, students will choose questions for discussion or debate in the next class. Students might also be asked to give short presentations on discussion questions. At the conclusion of each of the four major topics of the course, students will find a related news report and write a summary and opinion for homework, which they will then present to their classmates.</p> <p>テキスト Booklet An English-English dictionary (electronic or otherwise) is recommended.</p> <p>評価方法 Your grade will be based upon the following: Tests 75% テストの点数は、4回のテスト結果を高得点順にして、その上位3つの平均点になります。 Attendance, class work, participation and homework 25%</p> <p>授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない場合はこの授業の成績は「不合格」となります。</p>		

英語学概論		通年 4 単位	1年
現代英語の仕組み		高野 嘉明 (たかの よしあき)	
ねらい	現代英語の母音や子音などの音声、形態論や統語論などの文法、および語や文の意味についてしっかりと理解することをこの授業の主な目的としますが、英語の歴史的な側面についても概観します。また英語と日本語の違いについても検討したいと思います。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 前期分のガイダンス 第2回 英語の音声：発音器官 第3回 英語の音声：単母音 第4回 英語の音声：二重母音 第5回 英語の音声：調音点による子音の分類 第6回 英語の音声：調音法による子音の分類 第7回 英語の音声：音素と異音 第8回 英語の音声：音連続 第9回 英語の音声：強勢 第10回 英語の音声：イントネーション 第11回 英語の文法：形態素の種類と機能(1) 第12回 英語の文法：形態素の種類と機能(2) 第13回 英語の文法：語形成 第14回 前期分のまとめ 第15回 前期定期試験	<p>【後期】</p> 第1回 後期分のガイダンス 第2回 英語の文法：品詞論 第3回 英語の文法：文の要素 第4回 英語の文法：機能からみた文の種類 第5回 英語の文法：構造からみた文の種類 第6回 英語の意味：語の成分分析 第7回 英語の意味：語の上下関係と類義性 第8回 英語の意味：語の反意性と曖昧性 第9回 英語の意味：文の意味(1) 第10回 英語の意味：文の意味(2) 第11回 英語の歴史：古英語 第12回 英語の歴史：中英語 第13回 英語の歴史：近代英語 第14回 後期分のまとめ 第15回 後期定期試験	
進め方	基本的にはテキストを参照しながら講義形式で授業を進めますが、必要に応じてプリントも配布します。質問をして答えてもらうことも頻繁にあります。また、英語と日本語の違いについてもしばしば取り上げます。		
テキスト	増田秀夫他『現代英語学入門』（聖文新社）	参考文献	必要に応じて授業中に適宜紹介します。
評価方法	出席:30% 授業への参加度:10% 前期定期試験:30% 後期定期試験:30%		

英語学概論		通年 4 単位	1年
英語をさまざまな角度から検証する		中本 恭平 (なかもと きょうへい)	
ねらい	(1) 英語という言語をさまざまな角度から検証する。 (2) 英語と日本語の類似点・相違点を探る。 (3) 英語（および日本語）を通して、「人間のことば」とは何なのかを考える。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 前期ガイダンス（以下は予定である） 第2回 世界の英語 第3回 意味論 [1] 第4回 意味論 [2] 第5回 意味論 [3] 第6回 意味論 [4] 第7回 意味論 [5] 第8回 意味論 [6] 第9回 統語論 第10回 形態論と語形成 [1] 第11回 形態論と語形成 [2] 第12回 形態論と語形成 [3] 第13回 形態論と語形成 [4] 第14回 前期の復習 第15回 前期試験	<p>【後期】</p> 第1回 後期ガイダンス 第2回 音韻論と音声学 [1] 第3回 音韻論と音声学 [2] 第4回 音韻論と音声学 [3] 第5回 語用論 [1] 第6回 語用論 [2] 第7回 語用論 [3] 第8回 語用論 [4] 第9回 語用論 [5] 第10回 社会言語学 [1] 第11回 社会言語学 [2] 第12回 英語史 [1] 第13回 英語史 [2] 第14回 後期の復習 第15回 後期試験	
進め方	講義形式で進めるが、板書事項を単に書き写し、それを丸暗記するタイプの授業ではない。また、受講生は「参考文献」欄に記した各文献（事典類を含む）を読むことが求められている。		
テキスト	市販のテキストは使用しない。	参考文献	短大図書館備え付けの「授業別・指定参考図書リスト」を参照。
評価方法	試験:80% 平常点:20%		

英語学概論		通年 4 単位	1年
英語学の基礎		湯本 久美子 (ゆもと くみこ)	
ねらい	英語学の基礎を学ぶことを目的とします。英語史に加え英語学の基本である、音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論を中心に「ことば」そして英語への理解を深めていきます。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクダクシヨウ 第2回 英語史 第3回 英語史 第4回 英語史 第5回 英語史 第6回 英語史 第7回 音声学・音韻論 第8回 音声学・音韻論 第9回 音声学・音韻論 第10回 音声学・音韻論 第11回 音声学・音韻論 第12回 音声学・音韻論 第13回 まとめ1 第14回 まとめ2 第15回 定期試験	【後期】 第1回 形態論 第2回 形態論 第3回 形態論 第4回 形態論 第5回 統語論 第6回 統語論 第7回 統語論 第8回 統語論 第9回 意味論 第10回 意味論 第11回 意味論 第12回 意味論 第13回 コミュニケーション (言語・非言語) 第14回 まとめ1 第15回 定期試験	
進め方	担当者による講義を中心に進めますが、参加者への質問を頻繁に行います。常に「何故」という疑問とそれに対する「自分の考え」を持ってクラスへ参加されることを望みます。		
テキスト	稲木昭子・堀田知子・沖田知子. 2002. 『新えいご・エイゴ・英語学』. 松柏社. 英和辞書を毎回必ず持参のこと。	参考文献	必要に応じて授業中に適宜紹介します。
評価方法	期末試験:50% 平常点 (課題・出席・授業態度):50%		

英国史		通年 4 単位	1年
イギリスの歴史をつくった女性たち		梅垣 千尋 (うめがき ちひろ)	
ねらい	近世から現代にいたるまで、イギリスのさまざまな時代を生きてきた女性たちの姿をつうじて、英国史の流れをつかみ、イギリス社会の成り立ちを理解する。同時に、それぞれの女性たちがどのようにして自分の人生を意味あるものにしていったのかを学ぶことにより、女性の生き方について考える。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクダクシヨウ 第2回 概説:16世紀までのイギリス 第3回 エリザベス1世:英国国教会体制の確立 第4回 『エリザベス』:宗教対立の時代 第5回 メアリ・ステュワート:連合王国の成立過程 第6回 マーガレット・キャヴェンディッシュ:17世紀の科学革命 第7回 『ハリー・ポッター』から:錬金術・科学・ジェンダー 第8回 メアリ・アステル:18世紀の啓蒙と宗教 第9回 フィリス・ウィートリー:アメリカ独立と奴隷貿易 第10回 デヴォンシャー公爵夫人:議会議政治の形成過程 第11回 メアリ・ウルストンクラフト:革命とフェミニズム 第12回 ジェイン・オースティン:近代小説の成立過程 第13回 『いつか晴れた日に』:女性にとつての結婚 第14回 まとめ 第15回 前期試験	【後期】 第1回 概説:19世紀以降のイギリス 第2回 ヴィクトリア女王:大英帝国の繁栄 第3回 シャーロット・ブロンテ:ヴィクトリア時代の道徳規範 第4回 『ジェイン・エア』:ガヴァネスとしての女性 第5回 フローレンス・ナイティンゲール:戦争と看護の専門化 第6回 アンナ・レオノーウェンス:大英帝国とその周縁 第7回 『アンナと王様』:オリエンタリズムと帝国主義 第8回 ミリセント・フォーセット:女性参政権運動の展開 第9回 ピアトリクス・ポター:工業化と自然保護 第10回 『ミス・ポター』:女性にとつての家庭 第11回 ヴァージニア・ウルフ:戦間期イギリス社会の変容 第12回 マーガレット・サッチャー:新自由主義の功罪 第13回 ヴィヴィアン・ウエストウッド:ファッションと文化創造 第14回 学年末教場レポート執筆 第15回 後期試験	
進め方	講義が中心となるが、可能なかぎり映画などの映像資料を使用して理解の助けとしたい。授業時間内に毎回コメントや質問を書いてもらい、次回にリプライするかたちをとるので、受け身にならず授業に臨んでほしい。		
テキスト	特に使用せず、授業中に配布するプリント (パワーポイントのスライド・コピー) を教材にする。	参考文献	授業中に配布する参考文献一覧表と、図書館カウンターにある2009年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	出席状況:10% 授業中に書くコメント:10% 学年末教場レポート:10% 前期・後期の期末試験:70%		

英国史		通年 4 単位	1年
イギリスの過去を知り、現在を知る		甲斐 祥子 (かい しょうこ)	
ねらい	各人が抱く多様なイギリス像—議会制の母国、伝統のある美しい国、先端的な若者文化の国、フーリガンの国等々—これらはすべて、イギリスの歴史に根ざしている。歴史を知ることで、表面的なイギリス像の下に見えてくるものがある。本講義は、英国史を通じて、過去が現在をいかに形作っているかを洞察し、イギリスへの理解を深めることをめざす。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンスと序論 第2回 イギリスの歴史のはじまり 第3回 アングロ・サクソン民族とイギリスの基礎 第4回 イングランド王国の形成 第5回 ノルマン人の征服1 第6回 ノルマン人の征服2 第7回 イングランド封建国家 第8回 アンジュー帝国 第9回 イギリス立憲政治の基礎1 第10回 イギリス立憲政治の基礎2 第11回 島国国家の形成 第12回 百年戦争と封建社会の変容1 第13回 百年戦争と封建社会の変容2 第14回 ばら戦争とテューダー朝の創始 第15回 試験	【後期】 第1回 イングランド宗教改革1 第2回 イングランド宗教改革2 第3回 エリザベス時代の光と影 第4回 イギリス革命1 第5回 イギリス革命2 第6回 イギリス革命3 第7回 名誉革命体制 第8回 植民地帝国の形成 第9回 二重革命の時代 第10回 改革の時代から繁栄の時代へ 第11回 大英帝国の繁栄と衰退 第12回 帝国主義の時代 第13回 2つの世界大戦 第14回 新しい時代のイギリス 第15回 試験	
進め方	時代順にテーマを設定し、1つのテーマを1～3回かけて論ずる。テキストを読み進めるという形式はとらないが、参考資料および補助教材として用いるので、授業時にはテキストを持参すること。		
テキスト	指昭博『図説 イギリスの歴史』（河出書房新社）	参考文献	『（世界歴史大系）イギリス史1, 2, 3』（山川出版社）、『（新版世界各国史11）イギリス史』（山川出版社）、『イギリスの歴史』（有斐閣）
評価方法	試験:70% 出席:30%		

米国史		通年 4 単位	1年
アメリカ合衆国の歴史		荒木 純子 (あらき じゅんこ)	
ねらい	アメリカ合衆国の歴史について学ぶ。新大陸の発見からたった数百年の間に世界の覇権国家と発展した大国であると同時に、価値観の多様化・グローバル化により現在いろいろな問題を多く抱えているアメリカについて、歴史的な資料や最新ニュースも取り入れつつ理解を深める。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション 第2回 地図 第3回 地理 第4回 植民地以前 第5回 植民地時代 第6回 独立・建国期 第7回 19世紀前半 第8回 南北戦争と再建時代 第9回 ギルテッド・エイジ 第10回 革新主義 第11回 第一次世界大戦 第12回 1920年代 第13回 第二次世界大戦 第14回 まとめ 第15回 前期試験	【後期】 第1回 夏休みのまとめ 第2回 冷戦 第3回 公民権運動 第4回 1970年代 第5回 世紀転換期 第6回 ネイティブ・アメリカン 第7回 アフリカ系アメリカ人 第8回 ラティノー/ヒスパニック 第9回 アジア系アメリカ人 第10回 ジェンダー 第11回 政治思想 第12回 宗教 第13回 ポピュラーカルチャー 第14回 まとめ 第15回 後期試験	
進め方	主として講義形式で進める。時代順に進め、現代まで到達した後はトピック別にアメリカ社会を分析する。その際、テキストや文字史料だけでなく、ビデオや画像も使用して理解を深める。予習の資料や講義の内容などについて、簡単なコメントを毎回提出してもらおう。各学期末には試験を行う。夏休みにはレポート課題がある。		
テキスト	有賀賀紀・油井大三郎編『アメリカの歴史』（有斐閣アルマ、2003）、亀井俊介編『アメリカ文化史入門』（昭と堂、2006）他、プリントを配布する。	参考文献	斎藤真他監修『アメリカを知る事典（新訂増補版）』（平凡社、2000）他、授業中に指示する。
評価方法	前期試験:30% 後期試験:30% 夏休みの課題:20% 出席（コメント）:20%		

米国史		通年 4 単位	1年
オバマ大統領を迎えたアメリカ合衆国を知る—スクリーンを通して米国史を学ぶ		岩本 裕子 (いわもと ひろこ)	
ねらい	歴史を学ぶことに拒否反応を示す学生にも米国に関心のない学生にも、1年間受講することで「米国のことが気になって仕方がない」と思える講義としたい。「歴史を学ぶ」ことは「暗記する」ことではなく「考える」ことである。映画を読み解きながら米国史を講義する。「歴史を学ぶことが大切だとわかる映画好き」になり「考える」学生に成長しよう		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 2009年春のニュースを読む—新聞を読んでいますか？ 第2回 「オバマ大統領就任記念コンサート」を読み解く 第3回 合衆国代表三賞（グラミー・アカデミー・トニー）を知る 第4回 オバマ大統領の登場意義をアメリカ史の流れで考える 第5回 高校世界史の教科書を再読する①—アメリカ革命 第6回 高校世界史の教科書を再読する②—19世紀の百年間 第7回 連邦祝日「メモリアルデー」を知る 第8回 アメリカ先住民の歴史を知る①—ボカホンタスって？ 第9回 アメリカ先住民の歴史を知る②—ジョニー・デップ…？ 第10回 「オキナワ」から日米関係を考える 第11回 「ディズニー映画」のアメリカ的意義を知る 第12回 「自由の女神」を映画に見つける 第13回 連邦祝日「7月4日」を通して愛国心を考える 第14回 マンハッタン計画を学びヒロシマ・ナガサキを考える 第15回 前期末試験	<p>【後期】</p> 第1回 2009年夏のニュースを読む—夏休みに新聞を読んだ？ 第2回 黒人史を映画に学ぶ①—ヒップホップの源流をたどる 第3回 黒人史を映画に学ぶ②—白人から黒人への暴力を知る 第4回 黒人史を映画に学ぶ③—黒人社会内部の暴力を考える 第5回 ハロウィーンから銃社会を考える 第6回 「タイタニック」からアイルランド系移民の悲哀を学ぶ 第7回 連邦祝日「復員軍人の日」を知る 第8回 JFK暗殺46年目に「大統領」の存在を考える 第9回 連邦祝日「感謝祭」を知る 第10回 真珠湾攻撃68年目に映画『パールハーバー』を読む 第11回 ジョン・レノン射殺29年目に家族を考える 第12回 「9月11日」から8年後の世界を読みイスラム教を学ぶ 第13回 黒人教会のクリスマス礼拝に参加する 第14回 最終講義に「贈る言葉」を見つけてみよう！ 第15回 年度末試験	
進め方	講義では毎回、可能な限り音楽を聞き、映画は7分間程度一部分だけが見ていきたい。映画は単なる娯楽ではなく、歴史を考える重要な教材であることをスクリーンを通して実証していく。耳と目でも米国を実感してほしい。身近な音楽や何気なく見ている映画に興味があることを確認してほしい。		
テキスト	岩本裕子『スクリーンに投影されるアメリカ』（メタ・ブレーン、2003年）	参考文献	日本を含めた世界のニュースに関して毎回講義で言及する。TV欄以外の日々の朝刊、夕刊は必読の参考書となるだろう。新聞を読んで時事問題に強くな
評価方法	積極的な講義参加:20% 夏休み中のレポート:20% 前期試験:25% 後期試験:35%		

英米文化研究		通年 8 単位	2年
The History and Culture of Canada		フィリップス (PHILLIPS, J.R.)	
ねらい	This course will provide an overview of the history and culture of Canada. Emphasis will be placed on the way in which Canadian history and culture has evolved in a way distinct from that of the United States, resulting in superficially similar but deeply different societies.		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Introduction 第2回 Thinking about History 第3回 First Nations 第4回 When World's Collide - First Contact 第5回 The Rise of New France 第6回 The Fall of New France 第7回 The Failed Republic 第8回 The Roads to Confederation 第9回 From Colony to Country 第10回 World War 1 第11回 Hard Times - Depression and War 第12回 The Quiet Revolution - Constitution and Nationalism 第13回 Canadian History Quiz - Research Topics	<p>【後期】</p> 第1回 Thinking about Culture - Term 1 Report due 第2回 Canada - USA: Similarities and Differences 第3回 Immigration and Multiculturalism 第4回 The Japanese in Canada 1 第5回 The Japanese in Canada 2 第6回 Literature, Arts and Music 第7回 Sports and Leisure 第8回 The Environment 第9回 Peacekeeping 第10回 Work, Health and Welfare 第11回 The Future of Canada 第12回 Culture Summary - Research Topics 第13回 Canadian Culture Quiz 第14回 Quiz and Report Feedback- Term 2 Report due	
進め方	Each week, there will be a reading assignment set for homework. In class there will be one period consisting of a lecture and/or presentation followed by discussion in the second period. The lecture and discussion will be based on or related to the reading assignment.		
テキスト	Printed handouts will be provided each week.	参考文献	A list of references will be provided.
評価方法	Quizzes:40% Reports:40% Attendance, participation and homework:20%		

英米文化研究		通年 8 単位	2年
アメリカ社会と「ユートピア」		荒木 純子（あらかき じゅんこ）	
ねらい	アメリカという国はいわば「ユートピア」を実際に行った社会である。そのアメリカ社会の基盤として大きな影響力を持ったキリスト教の発展を学びつつ、アメリカ社会を「ユートピア」という観点から眺め、多様な人々をまとめてきた要素について考えたい。また科学技術の発展も視野に入れ、現代世界におけるアメリカニゼーションについても考察す		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション 第2回 アカデミックスキルズ1 第3回 アカデミックスキルズ2 第4回 アカデミックスキルズ3 第5回 アカデミックスキルズ4 第6回 アカデミックスキルズ5 第7回 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター訪問 第8回 キリスト教基礎知識、『アメリカ・キリスト教史』序章 第9回 第1章、第2章 第10回 第3章、第4章 第11回 第5章、第6章 第12回 第7章、第8章 第13回 第9章、第10章 第14回 第11章、第12章 第15回 まとめ	【後期】 第1回 夏休みのまとめ 第2回 共和主義 第3回 ユートピア小説 第4回 万国博覧会、遊園地 第5回 ディズニールランド 第6回 学外授業 第7回 中間まとめ 第8回 学生による発表 第9回 学生による発表 第10回 学生による発表 第11回 学生による発表 第12回 学生による発表 第13回 学生による発表 第14回 学生による発表 第15回 まとめ	
進め方	後期前半まではテキスト及び配布資料（英文、和文）を全員で議論する。後期後半には各自関連トピックについてリサーチの上、口頭発表をしてもらう。日本語参考文献より数回小レポートを提出してもらう。前期末にはまとめのレポートを、後期末は各自の口頭発表と関連した長めのレポートを提出してもらう。その他、図書館等学内外での授業を		
テキスト	佐藤望編『アカデミック・スキルズ』（慶應義塾大学出版会、2006）、森本あんり『アメリカ・キリスト教史』（新教出版社、2006）他、プリント（英	参考文献	小林康夫・船曳建夫『新・知の技法』（東京大学出版会、1998）他、授業中に指示する。
評価方法	前期レポート:30% 後期レポート:30% ブックレポート:15% 口頭発表:10% 出席・授業への参加:15%		

英米文化研究		通年 8 単位	2年
アメリカの社会と政治・外交		石井 貴太郎（いしい かんたろう）	
ねらい	過去200年間にわたるアメリカ政治・外交の過程が、その社会システムの特色から生み出されるものであることを理解しつつ、現代アメリカ社会への洞察力を養うとともに、日本社会との比較考察を試みていく。		
授業計画	【前期】 第1回 アメリカ政治外交の概説と輪読テキストの紹介 第2回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第3回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第4回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第5回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第6回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第7回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第8回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第9回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第10回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第11回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第12回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第13回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第14回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第15回 前期講義のまとめ	【後期】 第1回 アメリカ社会の概説と輪読テキストの紹介 第2回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第3回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第4回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第5回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第6回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第7回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第8回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第9回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第10回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第11回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第12回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第13回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第14回 各担当者による報告と質疑応答および討論 第15回 後期講義のまとめ	
進め方	毎回の講義であらかじめ割り当てられた担当者が報告し、その内容を基に質疑応答および討論を行なう。		
テキスト	矢野重喜（編）『新・アメリカ研究入門』（成美堂） 石井貴太郎『現代社会を論ずるための30章』（芦	参考文献	必要に応じて講義中に指示する。
評価方法	報告内容の得点:20% 平常点（出席率および受講態度）:80%		

英米文化研究		通年 8 単位	2年
映画からみるイギリス社会		梅垣 千尋 (うめがき ちひろ)	
ねらい	優れた映画作品は、豊かな想像力と深い考察力を身につけるための恰好の材料となる。このゼミでは、社会的な題材を扱ったいくつかの映画をつうじて、イギリス社会の諸問題にかんする理解を深めるとともに、そこで暮らすさまざまな人びとの生き方を学ぶ。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクダクション 第2回 『ウェールズの山』：連合王国としてのイギリス (1) 第3回 『ウェールズの山』：連合王国としてのイギリス (2) 第4回 『ボクサー』：北アイルランド問題 (1) 第5回 『ボクサー』：北アイルランド問題 (2) 第6回 『リタと大学教授』：労働者階級と高等教育 (1) 第7回 『リタと大学教授』：労働者階級と高等教育 (2) 第8回 『リトル・ダンサー』：サッチャー主義の功罪 (1) 第9回 『リトル・ダンサー』：サッチャー主義の功罪 (2) 第10回 『レディバード・レディバード』：福祉国家のあり方 (1) 第11回 『レディバード・レディバード』：福祉国家のあり方 (2) 第12回 『ベッカムに恋して』：多文化社会イギリス (1) 第13回 『ベッカムに恋して』：多文化社会イギリス (2) 第14回 まとめ (1) 第15回 まとめ (2)	【後期】 第1回 後期INTROダクション：卒論にむけて 第2回 卒論個人面談 第3回 『マグダレンの祈り』：アイルランドの宗教と女性 (1) 第4回 『マグダレンの祈り』：アイルランドの宗教と女性 (2) 第5回 『裸足の1500マイル』：オーストラリアと人種主義 (1) 第6回 『裸足の1500マイル』：オーストラリアと人種主義 (2) 第7回 学外映画鑑賞 第8回 学外映画鑑賞のふりかえり 第9回 卒論発表 (1) 第10回 卒論発表 (2) 第11回 卒論発表 (3) 第12回 卒論発表 (4) 第13回 卒論発表 (5) 第14回 卒論発表 (6) 第15回 まとめ	
進め方	映画鑑賞、映画の内容にかんする英文講読、台詞の音読と翻訳、映画の背景にかんするトピックス発表、ディスカッションなどを織り交ぜながら授業を進める。また後期には、授業と平行して卒業論文の作成に取り組む。なお映画によっては授業時間が変動する場合もあるので、その旨あらかじめ承しておいてほしい。		
テキスト	特に使用せず、授業中に配布するプリント（英文の雑誌記事）を教材にする。	参考文献	必要に応じて授業中に適宜紹介する。
評価方法	出席状況:10% 授業への参加姿勢:30% 学期中の小レポート:30% 学年末の卒業論文:30%		

英米文化研究		通年 8 単位	2年
夏目漱石の英国留学体験		加納 孝代 (かのう たかよ)	
ねらい	夏目漱石の英国留学体験の意味を明らかにする。近代日本の最も重要な文化人の一人である漱石は、1900年から1902年の約2年間、当時世界最強の「大英帝国」の首都ロンドンに滞在した。その中で彼が自分の祖国である日本をどのように振り返り、反省し、再評価をしたかを理解する。またその体験から生まれた漱石の文学作品を理解する。		
授業計画	【前期】 第1回 夏目漱石の生涯と仕事の概要 第2回 明治日本の歩みと、英国留学までの漱石 第3回 英国までの旅。書簡と日記。『夢十夜』の「第七夜」 第4回 ロンドンの印象。書簡と日記精読 第5回 大都市ロンドン。『永日小品』中の「印象」研究 第6回 英国人の家庭。『永日小品』中の「下宿」研究 第7回 同上。『永日小品』中の「過去の匂い」研究 第8回 演劇体験。『永日小品』中の「暖かい夢」研究 第9回 『ホトトギス』と子規と漱石。『倫敦消息』研究その1 第10回 英国人との付き合い方。『倫敦消息』研究その2 第11回 ロンドンの美術館体験。漱石と『スチューディオ』 第12回 『永日小品』中の「クレイグ先生」研究その1 第13回 『永日小品』中の「クレイグ先生」研究その2 第14回 留学中の精神状態。『自転車日記』研究 第15回 漱石の英国留學生活の総括	【後期】 第1回 英国留学を経て生まれた漱石の文学作品 第2回 『倫敦塔』研究その1 第3回 『倫敦塔』研究その2 第4回 『カーライル博物館』研究その1 第5回 『カーライル博物館』研究その2 第6回 『幻影の盾』研究その1 第7回 『幻影の盾』研究その2 第8回 『幻影の盾』研究その3 第9回 『薙露行』研究その1 第10回 『薙露行』研究その2 第11回 『薙露行』研究その3 第12回 『薙露行』研究その4 第13回 『薙露行』研究その5 第14回 『永日小品』中の「霧」研究 第15回 『永日小品』中の「昔」研究	
進め方	毎回全員参加の形で夏目漱石の留学中の日記や書簡、随筆、小説などを読み、ディスカッションをする。授業中に指示した参考文献のブックレポートを前・後期に各5通提出。前期と後期末に期末レポートを各1通提出		
テキスト	「倫敦塔・幻影の盾」（新潮文庫）。「文鳥・夢十夜・永日小品」（角川文庫）。「漱石日記」（岩波文庫）。「漱石書簡集」（岩波文庫）	参考文献	江藤淳『漱石とその時代』1, 2, 3。角野喜六『漱石のロンドン』。出口保夫『ロンドンの夏目漱石』。出口『漱石のロンドン風景』、出口『世紀末のイギリ
評価方法	指定のブックレポート:40% 前・後期末のレポート:40% 出席状況とディスカッション参加:20%		

英米文化研究		通年 8 単位	2年
多民族社会としてのアメリカ		黒岩 裕 (くろいわ ゆたか)	
ねらい	多民族社会アメリカの歴史と現状について理解を深め、アメリカをより客観的、批判的に見る目を養うことがこのゼミのねらいです。		
授業計画	【前期】 第1回 アメリカをみる視点 第2回 多民族社会としてのアメリカ 第3回 植民地時代の移民 第4回 旧移民1 第5回 旧移民2 第6回 旧移民3 第7回 新移民1 第8回 新移民2 第9回 新移民3 第10回 アジア系とヒスパニック1 第11回 アジア系とヒスパニック2 第12回 日系移民1 第13回 日系移民2 第14回 日系移民3 第15回 前期のまとめ	【後期】 第1回 アメリカ先住民1 第2回 アメリカ先住民2 第3回 日米の先住民 第4回 同化に関する考え方1 第5回 同化に関する考え方2 第6回 多言語社会としてのアメリカ1 第7回 多言語社会としてのアメリカ2 第8回 人種民族間の格差1 第9回 人種民族間の格差2 第10回 差別1 第11回 差別2 第12回 学生の発表1 第13回 学生の発表2 第14回 学生の発表3 第15回 授業のまとめと感想	
進め方	講義を中心に授業を進めますが、学生の皆さんの発言や質問も歓迎します。テキストだけでなく、関連するビデオ・映画や新聞・雑誌記事なども利用します。		
テキスト	明石紀雄・飯野正子著『エスニック・アメリカ[新版]』（有斐閣）	参考文献	授業中に適宜紹介します。
評価方法	出席と授業への参加:10% 課題:20% 発表:20% 卒業レポート:50%		

英米文化研究		通年 8 単位	2年
現代イギリスにおける文化と社会を読み解く		酒井 順子 (さかい じゅんこ)	
ねらい	現代イギリスは、EU統合、移民・難民の急増、経済のグローバル化、家族のあり方の変化などから、伝統的なイギリス社会のイメージとは大きく異なってきている。この授業では、変容しつつある21世紀のイギリスの文化と社会についての資料を読んで、自らも関心を持ったテーマについて調べ、研究レポートを書いてみる。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション：授業の進め方、報告レジュメの書き方 第2回 イギリス研究の基礎知識と参考文献 第3回 イギリスにおける人種、エスニシティ、移民（1） 第4回 イギリスにおける人種、エスニシティ、移民（2） 第5回 イギリスにおける人種、エスニシティ、移民（3） 第6回 イギリスにおける階級をめぐる諸議論（1） 第7回 イギリスにおける階級をめぐる諸議論（2） 第8回 イギリスにおける階級をめぐる諸議論（3） 第9回 イギリスにおけるジェンダーをめぐる諸議論（1） 第10回 イギリスにおけるジェンダーをめぐる諸議論（2） 第11回 イギリスにおけるジェンダーをめぐる諸議論（3） 第12回 イギリス的なる文化：マジョリティの文化（1） 第13回 イギリス的なる文化：マジョリティの文化（2） 第14回 イギリス的なる文化：マジョリティの文化（3） 第15回 まとめ、夏休みの課題について	【後期】 第1回 夏休みの課題報告会 第2回 レポート・論文の書き方（剽窃を避けるには） 第3回 研究レポートの課題報告：文献目録をつくる 第4回 英字新聞記事から資料を探す 第5回 インターネットから資料を探す 第6回 伝記研究の方法 第7回 映像資料からイギリスを見る 第8回 映像資料を解釈するには 第9回 研究レポート中間報告 第10回 研究レポート中間報告 第11回 レポート・論文の構成と書き方 第12回 注のつけ方、書誌情報の書き方 第13回 研究レポート最終報告 第14回 論文の仕上げ：体裁の整え方 第15回 合評会	
進め方	前期は、英文資料を読んで現代イギリスの文化と社会についての理解を深めていく。後期は、各自が自分の関心に沿ってテーマを選び、現代イギリスの文化社会の変容について調べ、自らの考察をレポートあるいは論文としてまとめていく。個人研究でもグループ研究でもよい。各自の研究テーマは自由に選んでほしいが、授業ではエスニシティ研究の比重を高くする予定である。		
テキスト	資料集を授業のはじめに配布する。	参考文献	アンソニー・ギデンズ『社会学』而立書房、2004年。その他必要に応じて紹介する。
評価方法	出席:20% 課題・授業での発表:40% 前期レポート:10% 最終レポート・論文:30%		

英米文化研究		通年 8 単位	2年
日・米英間コミュニケーションの諸問題		高野 嘉明 (たかの よしあき)	
ねらい	日・米英間で英語を使用してコミュニケーションを行う場合を想定し、そこに関係してくる外国語としての英語という言語的要素、ボディールンゲージなどの非言語的要素、および文化・社会的背景などの日・米英間の相違に関する理解を深め、異文化間コミュニケーションの際に生じうる障害を克服する方策を検討したいと思います。		
授業計画	【前期】 第1回 前期分のがイダンス 第2回 コミュニケーションのブロセス 第3回 異文化間コミュニケーションのブロセス(1) 第4回 異文化間コミュニケーションのブロセス(2) 第5回 (異文化間)コミュニケーションの断絶 第6回 コミュニケーションのモデル 第7回 異文化間コミュニケーションのモデル(1) 第8回 異文化間コミュニケーションのモデル(2) 第9回 異文化間コミュニケーションの言語の問題(1) 第10回 異文化間コミュニケーションの言語の問題(2) 第11回 異文化間コミュニケーションの言語の問題(3) 第12回 異文化間コミュニケーションの非言語的側面(1) 第13回 異文化間コミュニケーションの非言語的側面(2) 第14回 異文化間コミュニケーションの非言語的側面(3) 第15回 前期分のまとめ	【後期】 第1回 後期分のがイダンス 第2回 異文化間コミュニケーションの身体言語の問題 第3回 顔の表情とアイコンタクトの問題 第4回 ジェスチャーの問題 第5回 姿勢の問題 第6回 時間の捉え方の問題 第7回 空間の捉え方の問題 第8回 身体接触の意味の問題 第9回 異文化間コミュニケーションと文化の関係のケーススタディ 第10回 集団志向と個人志向の問題 第11回 日本の集団の特質(1) 第12回 日本の集団の特質(2) 第13回 アメリカの集団の特質(1) 第14回 アメリカの集団の特質(2) 第15回 後期分のまとめ	
進め方	前期は基本的に文献を交替で読んでいく形式で授業を行います。後期はそのほかに二人一組で研究発表をする形も交えながら授業を進めていく予定です。また、希望があれば卒業論文の指導も行います。		
テキスト	テキストは使用しません。授業中に配布するプリントを教材として利用します。	参考文献	必要に応じて授業中に適宜紹介します。
評価方法	出席:30% 授業への参加度:50% 研究発表:20%		

英米文化研究		通年 8 単位	2年
日英語対照意味論・語用論		湯本 久美子 (ゆもと くみこ)	
ねらい	本講座では、いろいろな事象を軸にして、日本語と英語を比較していきます。前期は「距離と角度と言語表現」、後期は「形式と意味」が分析テーマです。「ことば」のおもしろさを一緒に楽しんでいきたいと思っています。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション 第2回 ポライトネス：丁寧さと発話の力 第3回 ポライトネス：丁寧さと発話の力 第4回 ポライトネス：丁寧さと発話の力 第5回 ポライトネス：丁寧さと発話の力 第6回 ダイクシス：代名詞・指示詞・定冠詞 第7回 ダイクシス：代名詞・指示詞・定冠詞 第8回 ダイクシス：代名詞・指示詞・定冠詞 第9回 ダイクシス：代名詞・指示詞・定冠詞 第10回 卒業論文執筆ガイダンス 第11回 Fashion of Speech：言語と思考の関係 第12回 Fashion of Speech：言語と思考の関係 第13回 Fashion of Speech：言語と思考の関係 第14回 Fashion of Speech：言語と思考の関係 第15回 まとめ	【後期】 第1回 卒業論文中間報告発表 第2回 アスペクト：進行相 第3回 アスペクト：進行相 第4回 アスペクト：進行相 第5回 アスペクト：進行相 第6回 アスペクト：進行相 第7回 受動態 第8回 受動態 第9回 受動態 第10回 受動態 第11回 二重目的語構文 第12回 二重目的語構文 第13回 二重目的語構文 第14回 まとめ 第15回 卒業論文発表	
進め方	担当者による講義と学生による議論を中心に進めていきます。言語分析手法を学んだ後、各自が設定したテーマについて卒業論文を執筆することになります。積極的な議論参加を期待しています。		
テキスト	定まったテキストは使用せず、担当者が用意したプレゼンテーション資料をもとに進めます。英和・和英辞書を必ず毎回持参して下さい。	参考文献	授業中に紹介します。
評価方法	卒業論文:50% 平常点(課題・出席・授業態度):50%		

イギリスの文化と社会		通年 4 単位	2年
イギリスを理解するための6つのテーマ		梅垣 千尋 (うめがき ちひろ)	
ねらい	社会階級、福祉国家、家族と女性、帝国支配、北アイルランド問題、多文化主義という6つのテーマから、イギリスの文化と社会の諸特徴を理解する。イギリスが直面してきたさまざまな問題を学ぶことによって、私たちがごく当然なものとしてみている現代日本のあり方を相対化する視点を育てることが、この講義の大きなねらいとなる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション 第2回 社会階級 (1) 階級社会イギリスのなりたちと構造 第3回 社会階級 (2) 『マイ・フェア・レディ』 第4回 社会階級 (3) 階級にねざした文化のかたち 第5回 社会階級 (4) ディスカッション・小レポート 第6回 福祉国家 (1) 福祉国家イギリスの変容 第7回 福祉国家 (2) 『ナビゲーター』 第8回 福祉国家 (3) 社会民主主義と新自由主義の相克 第9回 福祉国家 (4) ディスカッション・小レポート 第10回 家族と女性 (1) 近代家族モデルの形成と変容 第11回 家族と女性 (2) 『Dear フランキー』 第12回 家族と女性 (3) 家族の多様化と女性の「自己決定」 第13回 家族と女性 (4) ディスカッション・小レポート 第14回 まとめ (1) 第15回 まとめ (2)	<p>【後期】</p> 第1回 帝国支配 (1) 大英帝国としてのイギリス 第2回 帝国支配 (2) イギリスのインド支配 第3回 帝国支配 (3) 植民地支配の功罪とグローバリゼーション 第4回 帝国支配 (4) ディスカッション・小レポート 第5回 北アイルランド問題 (1) イギリスのアイルランド支配 第6回 北アイルランド問題 (2) 『麦の穂をゆらす風』 第7回 北アイルランド問題 (3) 北アイルランド紛争の展開 第8回 北アイルランド問題 (4) 『ナッシング・パーソナル』 第9回 北アイルランド問題 (5) ロールプレイング・小レポート 第10回 多文化主義 (1) 移民社会イギリスのなりたちと構造 第11回 多文化主義 (2) 『ぼくの国、パパの国』 第12回 多文化主義 (3) テロ事件と多文化共生の模索 第13回 多文化主義 (4) ディスカッション・小レポート 第14回 まとめ 第15回 年度末レポート執筆	
進め方	講義が中心となるが、可能なかぎり映画やドキュメンタリー、音楽などの視聴覚資料を使用して理解の助けとする。各テーマの締めくくりとなる回の授業では、全員でグループ・ディスカッションを行ったのち、それぞれのテーマにかんする小レポートを書いてもらう。詳しいことは、初回の授業で説明する。		
テキスト	特に使用せず、授業中に配布するプリントを教材とする。	参考文献	図書館カウンターにある2009年度指定参考図書目録を参照のこと。それ以外の文献については授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業への参加姿勢:20% 小レポート(6回分):60% 夏休み明けレポート:10% 年度末レポート:10%		

アメリカの文化と社会		通年 4 単位	2年
アメリカ社会について考える		荒木 純子 (あらか きゅんこ)	
ねらい	アメリカ合衆国の地理、歴史、文学、政治、社会・文化、ポピュラーカルチャー、外交、そして日米関係について学び、アメリカに関する知識を得る。その際、最近興隆している多文化主義(エスニシティ、ジェンダーなど)、グローバリゼーションといった観点も分析の視野に入れ、アメリカ社会への理解を深める。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション 第2回 アメリカとは？ 第3回 地理 第4回 歴史の復習 1 第5回 歴史の復習 2 第6回 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター訪問 第7回 政治思想 1 第8回 政治思想 2 第9回 政治機構 1 第10回 政治機構 2 第11回 外交 1 第12回 外交 2 第13回 日米関係 第14回 まとめ 第15回 前期試験もしくはレポート指導	<p>【後期】</p> 第1回 夏休みのまとめ 第2回 文学 1 第3回 文学 2 第4回 文学 3 第5回 文学 4 第6回 ポピュラーカルチャー 1 第7回 ポピュラーカルチャー 2 第8回 社会・文化 1 第9回 社会・文化 2 第10回 社会・文化 3 第11回 社会・文化 4 第12回 比較文化 1 第13回 比較文化 2 第14回 まとめ 第15回 後期試験もしくはレポート指導	
進め方	テキストを中心に、文字史料、ビデオや画像も利用しながら理解を深める。予習部分や講義の内容などについて、簡単なコメントを毎回提出してもらう。各学期末には人数により、アメリカについての基本的な知識を問う試験、もしくは期末レポートを課す。また前期と後期各1-2回ずつ、小さめの課題をレポートにして提出してもらう。		
テキスト	古矢旬+遠藤泰生編『新版アメリカ学入門』(南雲堂, 2004)、亀井俊介編『アメリカ文化史入門』(昭和堂, 2006)他、プリントを配布する。	参考文献	能登路雅子『ディズニーランドという聖地』(岩波新書, 1990)、斎藤真他監修『アメリカを知る事典(新訂増補版)』(平凡社, 2000)他、授業中に指
評価方法	前期試験/レポート:30% 後期試験/レポート:30% 課題:20% 出席(コメント):20%		

人種問題		通年 4 単位	2年
多文化主義アメリカをさぐる		君塚 淳一 (きみづか じゅんいち)	
ねらい	主にアメリカにおける人種問題を中心に、時代背景・政治・経済・芸術・宗教など様々な分野から捉え、異文化理解・コミュニケーション・文学/文化研究などをする上での基礎知識およびその考え方を養う。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション (多文化主義アメリカと人種問題) 第2回 差別と偏見を考える (1) 第3回 差別と偏見を考える (2) 第4回 差別と偏見を考える (3) 第5回 映像、記事などによる分析と討論 (差別・偏見について) 第6回 アメリカの多民族と多文化主義 (概説) 第7回 アフリカ系アメリカ人 (1) 第8回 アフリカ系アメリカ人 (2) 第9回 アフリカ系アメリカ人 (3) 第10回 映像、記事の分析と討論 (差別・偏見について) 第11回 ユダヤ系アメリカ人 (含むヨーロッパのユダヤ人) (1) 第12回 ユダヤ系アメリカ人 (含むヨーロッパのユダヤ人) (2) 第13回 ユダヤ系アメリカ人 (含むヨーロッパのユダヤ人) (3) 第14回 映像、記事の分析と討論 (差別・偏見について) 第15回 前期のまとめ、課題などについての説明	【後期】 第1回 課題についてのコメント、映像、記事の分析と討論 第2回 日系アメリカ人 (1) 第3回 日系アメリカ人 (2) 第4回 日系アメリカ人 (3) 第5回 映像、記事の分析と討論 (日系アメリカ人について) 第6回 先住民が抱える問題について (概説) 第7回 アメリカ先住民 (1) 第8回 アメリカ先住民 (2) 第9回 アメリカ先住民 (3) 第10回 映像、記事の分析と討論 (アメリカ先住民について) 第11回 アメリカのその他の少数民族とアメリカの課題 (1) 第12回 アメリカのその他の少数民族とアメリカの課題 (2) 第13回 改めてアメリカ、その多民族と多文化主義を考える (1) 第14回 改めてアメリカ、その多民族と多文化主義を考える (2) 第15回 前期・後期の総復習、後期試験などについて説明	
進め方	アフリカ系アメリカ人、ユダヤ系アメリカ人、アメリカ先住民、日系アメリカ人ほか、多民族・多文化で構成されるアメリカを、活字資料、映像資料などを中心に考える。同時に何が偏見や差別を生むのか、ステレオタイプ化された表現、描写に惑わされることなくどうすれば真実が見れるかも考えたい。		
テキスト	『アメリカ映像文学に見る少数民族』(大阪教育図書)	参考文献	授業中にその都度、指示をする。
評価方法	出席:20% レポート:30% 試験:50%		

比較文化		通年 4 単位	2年
岩倉使節団の米・英見聞記を読む		加納 孝代 (かのう たかよ)	
ねらい	明治時代の日本人が記したアメリカとイギリスの旅行記の原文を、旅程に沿って読み、当時の日本人の目に映った、今から約140年前の米国と英国の姿を明らかにする。またその旅行記の文章の味読・精読を通じて、彼らが自分と異なる文化や社会をどのように受け止めたかを理解し、現在にも必要とされる比較文化的視点を探る。		
授業計画	【前期】 第1回 岩倉使節団の世界旅行全体と、アメリカ見聞の概要 第2回 太平洋の船旅、合衆国総説、サンフランシスコの1 第3回 サンフランシスコの2。学校 (小学校、大学) 見学 第4回 アメリカ横断鉄道旅行の1。シェラネヴァダ山脈を越える 第5回 アメリカ横断鉄道旅行の2。ユタとロッキー山脈 第6回 アメリカ横断鉄道旅行の3。シカゴからワシントンDCへ 第7回 ワシントンDCの1。共和国の精神。奴隷制度について 第8回 ワシントンDCの2。市内の各種政府機関見学 第9回 ニューヨークの1。セントラルパーク。マンハッタン 第10回 北部諸州見聞記の1。ウェストポイント、ナイアガラ 第11回 北部諸州見聞記の2。ボストン市内。太平楽会 第12回 ワシントンDCの3。合衆国南部諸州について 第13回 フィラデルフィア市訪問。大統領制度の概要。工場見学 第14回 ニューヨークの2。米国経済の中心地。パイブル会社 第15回 ボストン近郊の木綿、羊毛紡織工場見学	【後期】 第1回 岩倉使節団のイギリス見聞の概要。イギリス総説 第2回 ロンドンの1。ケンジントンの方博と英国産業の発展 第3回 ロンドンの2。小学校見学。倫敦塔、水晶宮ほか 第4回 リヴァプールの1。ドック見学。進んだ港湾施設の役割 第5回 リヴァプールの2。造船所、機関車・レール工場 第6回 マンチェスターの1。板ガラス、木綿紡織工場など 第7回 マンチェスターの2。禁酒団体。商工会議所。裁判所 第8回 グラスゴー市内の商業施設。プランタイル邸 第9回 エディンバラ市内見学。ロスリン教会。ベルロック灯台 第10回 スコットランドのハイランド紀行の1。ビットロクリ村 第11回 スコットランドのハイランド紀行の2。トロザック地方 第12回 ブラドフォード。社会福祉モデル都市ソルテア 第13回 シェフィールドの製鉄工場 第14回 パーミンガムと陶磁器のチェスター 第15回 ロンドンの3。イギリス視察の総括	
進め方	テキスト『米欧回覧実記』の第1巻「アメリカ編」と第2巻「イギリス編」を、原文に即して読んでいく。紀行内容については要約を用意するが、毎回重要箇所の音読を行なうので、テキストは必携。関連する資料 (地図・写真・文献) をできるだけ多く参照する。毎回授業の終りに、200字程度のコメントを提出してもらおう。		
テキスト	久米邦武『米欧回覧実記』第1巻、第2巻 (岩波文庫)。(4月時点で2冊とも同時に買っておくように)	参考文献	『特命全權大使「米欧回覧実記」銅版画集』(久米美術館)、『久米邦武文書』1~4 (吉川弘文館)、『久米博士九十年回顧録』上・下 (宗高書房)
評価方法	授業中のコメント:60% 前・後期末のレポート:40%		

英文法		通年 4 単位	2年
細かい意味の違いまで区別できるようになるための英文法		中本 恭平 (なかもと きょうへい)	
ねらい	ひとつの文法形式にはひとつの意味がある。形式が同じなら意味に共通点があり、逆に形式が異なれば意味も異なる。互いに関連しあう文法形式を比較しながら、それぞれの文法形式が持つ意味を確認していく。		
授業計画	【前期】 第1回 前期ガイダンス (以下は予定である) 第2回 時制 (空間と時間) 第3回 単純現在と単純過去 第4回 単純現在と現在進行 第5回 現在進行と現在完了 第6回 現在完了と現在完了進行 第7回 単純過去と過去完了 第8回 話法と時制の一致 第9回 時制のまとめ 第10回 「未来」 第11回 法助動詞 [1] 第12回 法助動詞 [2] 第13回 法助動詞 [3] 第14回 前期の復習 第15回 前期試験	【後期】 第1回 後期ガイダンス 第2回 「使役動詞」とされる動詞群 第3回 受動文 第4回 不定詞と動名詞 第5回 定冠詞と不定冠詞 第6回 可算と不可算 第7回 There 構文 第8回 不定代名詞 第9回 形容詞 (限定と非限定) 第10回 関係詞 (制限と非制限) 第11回 否定表現 第12回 呼応 第13回 その他の文法項目 第14回 後期の復習 第15回 後期試験	
進め方	毎時間プリントを配布し、プリントに沿って講義する形で授業を進める。なお、本講座では、文の書き換えや空所補充などの練習や、各種検定試験対策の練習などはいっさい行わない。例年受講者が多く、大教室での講義になることが予想される。私語雑談、授業中の教室の出入りなどは厳禁します。また、出席は厳密に取ります。		
テキスト	市販のテキストは使用しない。	参考文献	短大図書館備え付けの「授業別・指定参考図書リスト」を参照。
評価方法	試験:80% 平常点:20%		

英語史		通年 4 単位	2年
英語の成長と変化の歴史：英語の辿った歴史を内面史・外面史の両観点から概観し、印欧語族に属する英語への理解を深める。		片見 彰夫 (かたみ あきお)	
ねらい	goodの比較級がなぜbetterか、toothの複数形はどうしてteethなのかということが頭をよぎったことはありませんか。さらに、独仏語と似た単語が英語に存在するのはなぜなのでしょう。本講義では英語史の知識を得ることによって、様々な文化的要因が言葉に影響を及ぼしていることを見出し、英語学習が一層実り多いものになることを目指します。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス:英語史を学ぶ意義について 第2回 古英語の系譜: インドヨーロッパ語とゲルマン語 第3回 古英語の背景: ブリテン島の先住民とアングロサクソン人 第4回 古英語の方言と時代区分 第5回 古英語の文字と発音 第6回 古英語の語彙: ケルト語の影響 第7回 古英語の語彙: ラテン語、古ノルド語の影響 第8回 古英語の形態論 第9回 古英語の統語論 第10回 古英語作品読解と文法: Beowulf を読む (1) 第11回 古英語作品読解と文法: Beowulf を読む (2) 第12回 中英語の性格と方言 第13回 中英語の語彙 第14回 中英語の統語法 第15回 試験	【後期】 第1回 英語の復興 : フランス語から英語へ 第2回 14世紀英語の語彙: フランス語、ラテン語等からの借入 第3回 14世紀英語の文法: 語形の変化 第4回 14世紀英語の文法: 統語法の変化 第5回 中英語作品読解と文法: Chaucer を題材に 第6回 中英語作品読解と文法: Morte D' Arthur を題材に 第7回 近代英語概観: 標準英語の成立 英訳聖書 第8回 近代英語の語彙と意味変化 第9回 近代英語の統語変化 第10回 近代英語の読解と文法 : Shakespeare を題材に 第11回 18世紀英語概観: 規範文法の始まり 文法的特徴 第12回 18世紀小説の読解と文法 : Henry Fieldingを題材に 第13回 The Oxford English Dictionaryについて理解を深める 第14回 アメリカ英語の成立と発展 (語彙と方言) 第15回 試験	
進め方	講義が中心ですが、受講者の理解を深めるため、BBC製作の英語史に関する番組や中世英語英文学作品がテーマとなっている映画等の視聴覚教材を適宜活用します。グループワークや自主リサーチも行うことで、受講生全員が自主的に楽しみながら学べるよう配慮します。丁寧に分かりやすく指導しますので心配は無用です。		
テキスト	『英語史』 英語学コース1 松浪 有 (編) 大修館書店 その他毎時補助教材として自作ハンドアウトを配布。	参考文献	短期大学図書館カウンターにある2009年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	前定期試験:35% 後定期試験:35% レポート:15% 小テスト、発表、参加意欲:15%		

対照言語学		通年 4 単位	2年
日英語の音と意味		湯本 久美子 (ゆもと くみこ)	
ねらい	日本語と英語の音と意味を比較することにより、英語についての知識を深めることと同時に、母語として無意識に使用していることの多い日本語の仕組みを認識することを目的とします。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODakShION 母音 (調音・表記) 第2回 母音 (調音・表記) 第3回 母音 (調音・表記) 第4回 母音 (調音・表記) 第5回 母音 (調音・表記) 第6回 子音 (音節/モーラ・開/閉音節) 第7回 子音 (音節/モーラ・開/閉音節) 第8回 子音 (音節/モーラ・開/閉音節) 第9回 子音 (音節/モーラ・開/閉音節) 第10回 子音 (音節/モーラ・開/閉音節) 第11回 アクセント (ピッチ・ストレス) 第12回 アクセント (ピッチ・ストレス) 第13回 まとめ1 第14回 まとめ2 第15回 定期試験	【後期】 第1回 オノマトピア 第2回 オノマトピア 第3回 オノマトピア 第4回 メタファー・メトニミー 第5回 メタファー・メトニミー 第6回 メタファー・メトニミー 第7回 語彙 第8回 語彙 第9回 語彙 第10回 情報構造 第11回 情報構造 第12回 情報構造 第13回 まとめ1 第14回 まとめ2 第15回 定期試験	
進め方	担当者による講義と課題についてのグループ議論・発表を中心に進めます。ことばのメカニズムに興味を持っている好奇心旺盛なそして積極的な参加者を期待します。		
テキスト	担当者によるハンドアウトを配布します。A4サイズのバインダーを用意して下さい。毎回英和・和英辞書を必ず持参のこと。	参考文献	必要に応じて授業中に適宜紹介します。
評価方法	期末試験:50% 平常点 (課題・出席・授業態度):50%		

社会言語学		通年 4 単位	2年
社会に見る言語の諸様相		狩野 郁子 (かのう いくこ)	
ねらい	あるひとつの言語が、地理的要因、社会的要因によりさまざまな形で現われる。その諸様相を、アメリカ社会の中の英語を中心に観察し、ことばの果たす社会的役割を考える。また、ことばがどのように習得されるか、言語習得の過程を、諸現象を資料に探究していく。		
授業計画	【前期】 第1回 Introduction to the course 第2回 Language in society: varieties 第3回 The standard: British and American English 第4回 African American English 第5回 African American English 第6回 History of African American English 第7回 Lingua Francas, and Pidgin and Creoles 第8回 Supplementary reading on Pidgins and Creoles 第9回 Wrap-up on Pidgins and Creoles 第10回 Styles, Slangs, and Jargons 第11回 Taboos and Euphemisms 第12回 Lanuage and Sexism 第13回 Supplementary reading on language and sexism 第14回 Wrap-up 第15回 Term exam	【後期】 第1回 Introduction to the course 第2回 Language Acquisition 第3回 Theories of child language acquisition 第4回 Acquisition of phonology, morphology and syntax 第5回 The biological foundation of language acquisition 第6回 Supplementary reading on first language acquisition 第7回 Article continues. 第8回 Article continues. 第9回 Theories of second language acquisition 第10回 Learning a second language 第11回 Supplementary reading 第12回 Brain and language 第13回 Brain and language 第14回 Wrap-up 第15回 Term exam	
進め方	講義を中心とし、必要に応じてテープ、ビデオ、DVDを使用し、理解を促していく予定である。		
テキスト	プリント使用	参考文献	Victoria Fromkin & Robert Rodman著 An Introduction to Language (Harcourt Brace Jovanovich College Publishers) 他
評価方法	Participation and In-class tasks:30% Term Examination:70%		

異文化間コミュニケーション		通年 4 単位	2年
異文化間コミュニケーション		横溝 環（よこみぞ たまき）	
ねらい	本講義は、異文化間コミュニケーションに関する基本的理論を学ぶとともに、自己および他者への気づきを高め、その上で、自他の尊重が相互になされるようなコミュニケーションを探求していくことを目的とする。		
授業計画	【前期】 第1回 文化とは 第2回 コミュニケーションとは 第3回 自分とは 第4回 価値観と文化的特徴（1） 第5回 価値観と文化的特徴（2） 第6回 アイデンティティ 第7回 ステレオタイプと偏見（1） 第8回 ステレオタイプと偏見（2） 第9回 言語コミュニケーション（1） 第10回 言語コミュニケーション（2） 第11回 非言語コミュニケーション（1） 第12回 非言語コミュニケーション（2） 第13回 カルチャーショックと異文化適応 第14回 異文化コミュニケーションスキル 第15回 試験	【後期】 第1回 国内でおきる摩擦（1） 第2回 国内でおきる摩擦（2） 第3回 海外でおきる摩擦（1） 第4回 海外でおきる摩擦（2） 第5回 国際舞台でおきる摩擦（1） 第6回 国際舞台でおきる摩擦（2） 第7回 多文化共生社会（1） 第8回 多文化共生社会（2） 第9回 マスメディアの影響（1） 第10回 マスメディアの影響（2） 第11回 グループ・プロジェクト発表準備 第12回 グループ・プロジェクト発表（1） 第13回 グループ・プロジェクト発表（2） 第14回 グループ・プロジェクト発表（3） 第15回 まとめ	
進め方	講義とともに、それに関連したエクササイズを行なう。さらに、それらをグループ討議または全体討議へとつなげていく（受講者の積極的参加を望む）。コメント（その日の授業での気づき等）または課題を授業の最後に毎回提出してもらう。		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	八代京子ほか著『異文化コミュニケーション・ワークブック』（三修社） その他、授業で適宜示す。
評価方法	コメントおよび課題:40% 試験:20% プロジェクト発表:20% プロジェクトレポート:20%		

カナダの文化と社会		通年 4 単位	2年
二つの公用語をもつ多民族国家の実像		竹中 豊（たけなか ゆたか）	
ねらい	カナダはアメリカ合衆国の“余白”でない。その歴史発展、民族構成、社会構造、地誌、芸術の表現など、独自の姿をもっている。こうしたカナダを21世紀型の実験国家としてとらえ、ユニークな姿を探っていく。また、英語圏に囲まれた中での仏語系ケベックの生き方にも焦点をあてる。		
授業計画	【前期】 カナダとは何か：地域研究としてのカナダ 第2回 基本知識：“kanata”から“premier”まで 第3回 地理的多様性：10州・3準州の特質 第4回 自然地誌：広大な国土のもつ社会的・文化的意味 第5回 カナダ社会：民族のおよび地域的多様性 第6回 多文化主義：多民族共生の実験舞台 第7回 英・仏バイリンガリズム：「公用語法」と言語環境 第8回 先住民と白人文明：“Where the Spirit Lives”を考える 第9回 移民社会としてのカナダ：その形成と特質 第10回 カナダの歴史：その描かれ方 第11回 カナダ社会の形成（1）：ヌーヴェル・フランス時代 第12回 カナダ社会の形成（2）：イギリス領北米から現代まで 第13回 毛皮交易とカナダ：二つの世界の出会いから 第14回 毛皮文化の功罪：“Do You Want Furs?”を考える 第15回 試験	【後期】 カナダとアメリカ合衆国：アメリカ嫌いのカナダ人？ カナダの政治文化：イギリス型とアメリカ型の折衷？ 議会制度：カナダ人はどのように統治されているか 政党システム：アメリカとの比較 カナダ総督と首相：型破りな人たち Glenn Gould：風変わりなピアニスト？ カナダの絵画芸術：“Group of Seven” カナダのアニメーション作品：Frédéric Backの世界 ケベック映画：“大いなる休暇” ケベックとは何か：カナダの「フランス的事実」 フランス系ケベック：その歴史的アイデンティティ ケベック社会の近代化：「静かな革命」とその影響 ケベックの言語政治：生き残りの手段としての仏語 カナダとケベック：多様性のなかの統一はどこまで可能か 試験	
進め方	講義が中心となるが、ビデオおよびOHPを多用する。視覚的にもカナダのイメージを構築していく。マップ・スタディを含め、課題を出す頻度は多い。ほぼ毎回配布資料あり。		
テキスト	日本カナダ学会編『新版史料が語るカナダ 1535-2007』有斐閣2008 および小畑精和・竹中豊 編著『ケベックを知るための54章』明石書店 2009	参考文献	竹中豊『カナダ：大いなる孤高の地—カナダの想像力の展開』彩流社 2000年。その他は授業時に紹介する。
評価方法	レポート:30% 試験:30% 出席:40%		

オーストラリアの文化と社会		通年 4 単位	2年
現代オーストラリア社会		杉田 弘也 (すぎた ひろや)	
ねらい	オーストラリアの歴史的背景を踏まえながら、大きく変化しつつある同国の現代社会を理解することを目的としています。「世界の中のオーストラリア」、「白豪主義から多文化主義社会への移行」、「アボリジナルオーストラリア国民と非アボリジナルオーストラリア国民との関係」といった話題を中心に、オーストラリア社会の変貌を感じ取って下さ		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクダクシヨソ 第2回 オーストラリア憲法の枠組み 第3回 オーストラリアの自然と環境 第4回 オーストラリアの地球温暖化対策 第5回 オーストラリアの教育制度 第6回 オーストラリア社会と労使関係 第7回 アボリジナル社会とイギリスの侵略 第8回 植民地社会の形成 第9回 連邦結成 第10回 第1次世界大戦 第11回 第2次世界大戦 第12回 オーストラリアの政治制度 第13回 2007年連邦総選挙 第14回 世界金融危機とオーストラリア 第15回 試験	【後期】 第1回 オーストラリアの外交政策の特徴 第2回 ラッド政権の外交政策 第3回 オーストラリアの移民政策 第4回 オーストラリアの難民政策 第5回 白豪主義とその背景 第6回 白豪主義社会から多文化主義社会へ 第7回 マルティカルチュラルオーストラリアの現状 第8回 先住民社会の現状 第9回 対先住民政策の推移 第10回 先住民の権利 第11回 Stolen Generations 第12回 先住民への謝罪 第13回 現在の先住民政策 第14回 オーストラリアの先住民文化 第15回 まとめ	
進め方	プリントや視聴覚教材を可能な限り活用していこうと考えています。講義が中心となりますが、クラス全体での活発な質疑応答や討論が発生することを期待しています。オーストラリアに関心のある受講生を歓迎します。		
テキスト	竹田いさみ、森健、永野隆行(編)、『オーストラリア入門第2版』、東京大学出版会(2007)、をテキストとして使用します。	参考文献	初回の講義でそのほかの参考文献の一覧を配布します。
評価方法	前期試験:30% 後期レポート:40% 平常点:30%		

東南アジア諸国の文化と社会		通年 4 単位	2年
東南アジアの国ぐにとわたしたちの暮らし		佐伯 奈津子(さえき なつこ) 長瀬 理英(ながせ りえい)	
ねらい	「エスニック」ブームで、東南アジアの食べ物や踊り、歌などが流行しています。でもそこでどんなことが起きているのか、人びとがどんな暮らしをしているのか、意外に知られていないのではないのでしょうか。わたしたち日本人の生活とも密着に関係する東南アジア(とくに島嶼部)について理解することを目指します。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション、ロールプレイのグループ分け 第2回 日本の援助は役に立っている?—政府開発援助とは 第3回 日本の援助は役に立っている?—訴えられたダム建設 第4回 日本の援助は役に立っている?—援助が拷問センターに? 第5回 国際協力の意味—地震・津波被災者支援活動の現場から 第6回 ロールプレイ 第7回 日本の貧困、アジアの貧困 第8回 モノから見える東南アジアとわたしたち—ナイキの靴 第9回 モノから見える東南アジアとわたしたち—エビ、バナナ 第10回 日本に暮らす東南アジアの人びと—研修生と労働者 第11回 日本に暮らす東南アジアの人びと—難民申請者 第12回 ディスカッション 第13回 ビデオ鑑賞—ビルマ人難民申請者一家の物語 第14回 東南アジアとのよりよい関係を目指して 第15回 長文リスポンスシート記入、提出	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 地図から見えてくるもの①自然・人びと・歴史 第3回 地図から見えてくるもの②社会・文化・政治・経済 第4回 表現から見えてくるもの① 絵画・詩からみる多様性 第5回 表現から見えてくるもの② 映画からみる政治と宗教 第6回 大陸部の暮らし①メコン河流域の自然と人々 第7回 大陸部の暮らし②メコン河流域諸国の歴史と変化 第8回 大陸部の暮らし③日本など外部者の関わり 第9回 グループ・ディスカッション 第10回 「国家」・「民族」とは何か 第11回 島嶼部の暮らし① フィリピン・ミンダナオ 第12回 島嶼部の暮らし② 争いと人々の暮らし 第13回 島嶼部の暮らし③ 日本など外部者の関わり 第14回 グループ・ディスカッション 第15回 後期全体のまとめ	
進め方	東南アジアの諸問題(国家・民族、開発、人権、環境、先住民、女性、子どもなど)は、わたしたちと無関係の「貧しい南の国ぐに」のできごとではありません。どのような関係があるのか、一緒に考えていきたいと思ひます。ただ文献を読んだり、講義を受けたりするのではなく、みなさんが積極的に参加できるように、グループで議論、発表してもらひ		
テキスト	毎回レジュメを用意します。	参考文献	授業時に随時紹介します。
評価方法	出席:30% Res. sheet/Report:70%		

アフリカ諸国の文化と社会		通年 4 単位	2年
アフリカについて考えよう		関谷 雄一（せきや ゆういち）	
ねらい	1年間かけてさまざまな素材からアフリカに関する情報や知識を養う。英語の視聴覚教材を主に使用し、英語力の向上にもつなげたい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 アフリカはどんなところ？（ワークショップ） 第2回 アフリカの自然・生態環境 第3回 アフリカの諸社会・文化 第4回 アフリカの歴史(1) 黎明期 第5回 アフリカの歴史(2) 中世 第6回 アフリカの歴史(3) 植民地化前 第7回 アフリカの歴史(4) 植民地時代 第8回 アフリカの歴史(5) 独立期 第9回 アフリカの歴史(6) 1960-今日 第10回 アフリカの宗教と言語 第11回 アフリカの健康問題 第12回 アフリカの経済産業 第13回 アフリカの情報コミュニケーション事情 第14回 アフリカ文化と呼ばれるもの 第15回 前期のまとめ	<p>【後期】</p> 第1回 夏休みレポートに関する話し合い 第2回 アフリカの都市化問題 第3回 女性性器切除等、割礼の問題 第4回 アフリカの紛争 第5回 アフリカの難民 第6回 アフリカの開発 第7回 アフリカのアニミズム 第8回 アフリカのキリスト教 第9回 アフリカのイスラム教 第10回 アフリカの人々の自然観 第11回 西アフリカの人々 第12回 東アフリカの人々 第13回 南アフリカの人々 第14回 北アフリカの人々 第15回 総括	
進め方	基本的に講義形式だが、視聴覚教材を多く使いながら、議論を深めるような授業をイメージしている。年2回のレポートは必ず出すことと、時々小レポートを課すことがある。		
テキスト	テキストは授業ですべて配布する。	参考文献	Fredrick Cooper & Martin Klein, Africa since 1940: The Past of the Present (New Approaches to African History), Cambridge U.P. [2002] etc.
評価方法	参加度:30% 夏休みのレポート:35% 冬休みのレポート:35%		

英米文学概論		通年 4 単位	1・2年
女性文学の発掘		遠藤 恵子（えんどう けいこ）	
ねらい	女性作家の作品を技法に着目しながら読むことで、なぜこれらの女性作家たちが‘モダニスト’であるのか、なぜ近年再評価されるようになったのか学んでいく。視点を変えると「真実」は「虚偽」に「正しい」は「正しくない」に変わる。誰にとつての「正しさ」が考察する事で様々な読み方があること、自分はどの読み方か考える		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業の進め方の説明 技法(art)とは何か 第2回 ケイト・ショパンについて 第3回 Doctor Chevalier' s Lie (プリント) 第4回 (各作品を通してサブテキストを読み取る練習をする) 第5回 A Very Fine Fiddle (プリント) 第6回 A Very Fine Fiddle 第7回 The Benitou' s Slave (プリント) 第8回 The Benitou' s Slave 第9回 The Benitou' s Slave 第10回 The Story of an Hour (プリント) 第11回 The Story of an Hour 第12回 The Story of an Hour 第13回 The Story of an Hour 第14回 papaerの書き方について説明 第15回 まとめ	<p>【後期】</p> 第1回 Roman Fever イーディス・ウォートンについて説明 第2回 Roman Fever 読解 第3回 Roman Fever 読解 第4回 Roman Fever 読解 第5回 Roman Fever 読解 第6回 Roman Fever 一回目の感想 第7回 Roman Fever 反転について説明 第8回 RomanFever 反転についてグループで考える 第9回 グループ発表 討論 第10回 Roman Fever 時間と空間について 第11回 Roman Fever グループ討論 第12回 グループ発表 第13回 全体を通して読み返す 第14回 papaerの説明 第15回 一年を通してのまとめ	
進め方	講義、演習が中心となる。作品を読みながら技法に着目し、技法を通して読むと作品がどの様に変貌するか発表や討論を通して実感する。あわせてpaperの書き方についても学ぶ。		
テキスト	1) 『‘モダニスト’ 女性作家一語りの戦略ー』（八潮出版社） 2) 「ローマ熱」、他。（プリント使用）	参考文献	図書館カウンターにある2009年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	レポート:80% 授業への取り組み:20%		

総合英語基礎 I		前期 1 単位	1年
英語の基礎力養成講座 (リスニング中心)		長田 宣子 (おさだ のぶこ)	
ねらい	英語の基礎力、特にリスニングに自信のない学生が、繰り返し聞き取りの訓練をすることなどにより、英語を聞く力を身につけることを主目的とする。さらに、副教材を通して、リスニングだけでなく語彙や文法などの総合的な英語力を伸ばすことも目指す。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Skit 1. Introductions (授業レベルの案内を行う) 第2回 Skit 2. Family & Chapter 1. Hamburger History 第3回 Skit 3. Movies & Chapter 1 つづき 第4回 Skit 4. Sports & Chapter 2. Rings and Things 第5回 Skit 5. Travel & Chapter 2 つづき 第6回 Skit 6. Recipes & Chapter 3. Bringing up Baby 第7回 Skit 7. Eating Out & Chapter 3 つづき 第8回 Skit 8. Fitness & Chapter 4. The Bhutanese 第9回 Skit 9. Health & Chapter 4 つづき 第10回 Skit 10. Music & Chapter 5. Into the Wilderness 第11回 Skit 11. Friends & Chapter 5 つづき 第12回 Skit 12. The Past & Chapter 6. Jade 第13回 Skit 13. The Future & Chapter 6 つづき 第14回 Skit 14. Directions 第15回 試験		
進め方	毎時間、一定量の英語を何度も聞いて書き取ってもらい、答え合わせをする。聞き取れなかった部分を中心に、なぜ聞き取れなかったのかを分析する。発音練習も多く行う。またさらなる聞き取りの練習をするために、DVD付きの副教材を用いて2週に一度ディクテーションの課題を提出してもらう予定である。		
テキスト	主教材：配布プリント 副教材：Welcome to BBC on DVD. 2009年. 成美堂 (総合英語基礎IIと同じテキスト)	参考文献	
評価方法	出席状況:30% 課題:20% 定期試験:50%		

総合英語基礎 I		前期 1 単位	1年
リスニング基礎		湯本 久美子 (ゆもと くみこ)	
ねらい	英語を正しく聞き取る基礎能力の習得を目的とし、基本的リスニング力に不安を持っている学生を受講対象としています。毎回テープを聴いて書き取る訓練を行うと同時に、基本的な音声の法則(音の弱化・短縮・消失・同化・連結)と発音記号の見方を学びます。聞き取りに慣れるように教科書に加え多様な教材を使用します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション：“Introduction” 本講座のリスニングのレベルを紹介します 第2回 母音 / “Family” 第3回 子音 / “Movies” 第4回 Unit 1 音の短縮 / “Sports” 第5回 Unit 2 音の短縮 / “Travel” 第6回 Unit 3 音の消失 / “Recipes” 第7回 Unit 4 音の連結 / “Eating Out” 第8回 Unit 5 音の脱落 / “Fitness” 第9回 Unit 5 音の脱落 / “Health” 第10回 Unit 6 音の同化 / “Music” 第11回 Unit 7 音の同化 / “Friends” 第12回 Unit 8 音の弱化 / “The Past” 第13回 Unit 10 音の弱化 / “The Future” 第14回 まとめ 第15回 定期試験		
進め方	毎回、前半はテキストに基づいて音声の法則を学習し、後半はテキストに加え短い文章を繰り返し聴き、書き取る練習をします。最後に短い会話のクイズをしますが、その内容はICEのテーマとリンクしています。		
テキスト	Martin, Ed & Tsukasa Matui. 2003. The Essence of College English Dictation. 『大学英語ディクテーションのエッセンス』. 朝日出版 英和辞書を持	参考文献	必要に応じて授業中に適宜紹介します。
評価方法	期末試験:50% 平常点(クイズ・出席・授業態度):50%		

総合英語基礎Ⅱ		後期 1 単位	1年
英語の基礎力養成講座（文法・語法中心）		長田 宣子（おさだ のぶこ）	
ねらい	英語の基礎力、特に文法・語法に自信のない学生が、多くの文法・語法問題を解くことなどにより、より英語らしい表現力を身につけることを目的とする。扱う文法・語法項目は、日本人が間違いやすいものとする。さらに、副教材を通して、文法・語法だけでなく語彙やリスニング力などの総合的な英語力を伸ばすことも目指す。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス（授業レベルの案内を行う） 第2回 「名詞」(1) & Chapter 7. The Mongols 第3回 「名詞」(2) & Chapter 7. つづき 第4回 「動詞」(3) & Chapter 8. Diamonds 第5回 「動詞」(4) & Chapter 8. つづき 第6回 「形容詞・副詞」(1) & Chapter 9. Gorillas 第7回 「形容詞・副詞」(2) & Chapter 9. つづき 第8回 中間試験 第9回 「冠詞」 & Chapter 10. A Father's Labor 第10回 「接続詞」 & Chapter 10. つづき 第11回 「時制・語順」 & Chapter 11. Queues 第12回 「カタカナ英語」 & Chapter 11. つづき 第13回 「イディオム」 & Chapter 12. Learning to See 第14回 「その他」 & Chapter 12. つづき 第15回 試験		
進め方	日本人英語学習者によく見られる文法・語法の間違いを取り上げ、問題を解き、なぜ間違えやすいのかを考える。また、DVD付き副教材を用いて、聞き取りの練習などもしてもらおう。知識定着のための小テストも行う。		
テキスト	主教材：配布プリント 副教材：Welcome to BBC on DVD. 2009年. 成美堂 （総合英語基礎Ⅰと同じテキスト）	参考文献	
評価方法	出席状況:30% 小テスト:20% 中間・定期試験:50%		

総合英語基礎Ⅱ		後期 1 単位	1年
文法基礎		湯本 久美子（ゆもと くみこ）	
ねらい	基本的な文法知識の習得を目的とし、基礎文法力に不安を持っている学生を受講対象としています。文法項目の中から理解の不足がちな項目を重点的にとりあげます。		
授業計画	【後期】 第1回 イントロダクション / Lesson 1 文型 (1) 第2回 Lesson 2 文型 (2) 第3回 Lesson 7 進行形 第4回 Lesson 8 完了形 (1) 第5回 Lesson 9 完了形 (2) 第6回 Lesson 12 態 (1) 第7回 Lesson 14 不定詞 (1) 第8回 Lesson 16 分詞 (1) 第9回 Lesson 17 分詞 (2) 第10回 Lesson 18 動名詞 (1) 第11回 Lesson 22 関係詞 (1) 第12回 Lesson 23 関係詞 (2) 第13回 Lesson 24 仮定法 (1) 第14回 復習 第15回 定期試験		
進め方	毎回指定のLessonを予習し、どこがわからないのかを明確にしてから授業に参加することが必須です。担当者による文法項目概説に続き、Exercisesを解いていきます。クイズを毎回行います。		
テキスト	福井慶一郎・加藤主税. 2007. 『読むための基礎英文法』. 朝日出版社. 「学習用」英和辞書を持参のこと	参考文献	必要に応じて授業中に適宜紹介します。
評価方法	期末試験:50% 平常点（クイズ・出席・授業態度）:50%		

総合英語		前期 2 単位	1・2年
		フィリップス (PHILLIPS, J. R.)	
ねらい	This course will use the seven-part TOEIC format to introduce strategies that will help students improve their comprehension of spoken and written English. At the same time, students who make effort can expect a significant improvement in their TOEIC scores.		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Course Introduction - TOEIC Part 1 Pictures 第2回 Part 1 Pictures - Part 2 Question and Response 第3回 Part 2 Question and Response - Part 3 Conversations 第4回 Part 3 Conversations - Part 4 Short Talks 第5回 Part 4 Short Talks 第6回 TOEIC Listening Summary and TOEIC Listening Quiz 第7回 Quiz Feedback and Listening Review 第8回 TOEIC Reading - Part 5 Incomplete Sentences 第9回 Part 5 Incomplete Sentences - Part 6 Text Completion 第10回 Part 6 Text Completion -Part 7 Reading Comprehension 第11回 Part 7 Reading Comprehension 第12回 TOEIC Reading Summary and TOEIC Reading Quiz 第13回 Quiz Feedback and Reading Review		
進め方	This course will use the TOEIC test as a tool for building general English communication skills. The course will focus on building skills and strategies that will not only improve TOEIC scores, but also improve overall English listening and reading comprehension.		
テキスト	Handouts	参考文献	
評価方法	Quizzes:50% Attendance and participation:50%		

総合英語		後期 2 単位	1・2年
		フィリップス (PHILLIPS, J. R.)	
ねらい	This course will use the seven-part TOEIC format to introduce strategies that will help students improve their comprehension of spoken and written English. At the same time, students who make effort can expect a significant improvement in their TOEIC scores.		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 Course Introduction - TOEIC Part 1 Pictures 第2回 Part 1 Pictures - Part 2 Question and Response 第3回 Part 2 Question and Response - Part 3 Conversations 第4回 Part 3 Conversations - Part 4 Short Talks 第5回 Part 4 Short Talks 第6回 TOEIC Listening Summary and TOEIC Listening Quiz 第7回 Quiz Feedback and Listening Review 第8回 TOEIC Reading - Part 5 Incomplete Sentences 第9回 Part 5 Incomplete Sentences - Part 6 Text Completion 第10回 Part 6 Text Completion -Part 7 Reading Comprehension 第11回 Part 7 Reading Comprehension 第12回 TOEIC Reading Summary and TOEIC Reading Quiz 第13回 Quiz Feedback and Reading Review 第14回 Using TOEIC as part of a long term learning strategy		
進め方	This course will use the TOEIC test as a tool for building general English communication skills. The course will focus on building skills and strategies that will not only improve TOEIC scores, but also improve overall English listening and reading comprehension.		
テキスト	Handouts	参考文献	
評価方法	Quizzes:50% Attendance and participation:50%		

総合英語		前期 2 単位	1・2年
TOEICリーディングを解くスキル		飯野 義一 (いいの よしかず)	
ねらい	出題タイプごとにTOEICリーディングを「解くスキル」を学び、同時に英語の読解力を付けます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンスとTOEICの概要 第2回 英語発音の基礎 第3回 TOEICリーディング小模擬試験(1) 第4回 同じような意味を持つ名詞、同じような意味を持つ動詞 第5回 語形、時制 第6回 修飾語句、前置詞 第7回 代名詞、接続詞 第8回 名詞を問う問題、動詞を問う問題 第9回 時間を問う問題、人物を問う問題 第10回 WH疑問文、質問の3タイプ 第11回 全体を問う問題、詳細を問う問題 第12回 推測して答える問題、同じような意味を持つ語 第13回 二つの文章を読む問題(1)(2) 第14回 TOEICリーディング小模擬試験(2) 第15回 期末試験		
進め方	第2回に米語母音を中心に発音とフォニックスの初歩を速習。第3回にTOEICリーディング小模擬試験を行う。第4回以降は出題タイプごとの問題文を意味の固まりで区切り、その区切りごとに逆戻りせずに音読と訳出。第14回に再びTOEIC小模擬試験を行い、解き方が変わったことを確認。毎回の授業でポキャブラリーを中心にミニテストをします。		
テキスト	Vital Skills for the TOEIC Test: Reading	参考文献	“Instant Vocabulary” または「ビジネス英単語倍増法」
評価方法	出席:20% 平常ミニテスト:30% 期末試験:50%		

総合英語		後期 2 単位	1・2年
TOEICリーディングを解くスキル		飯野 義一 (いいの よしかず)	
ねらい	出題タイプごとにTOEICリーディングを「解くスキル」を学び、同時に英語の読解力を付けます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンスとTOEICの概要 第2回 英語発音の基礎 第3回 TOEICリーディング小模擬試験(1) 第4回 同じような意味を持つ名詞、同じような意味を持つ動詞 第5回 語形、時制 第6回 修飾語句、前置詞 第7回 代名詞、接続詞 第8回 名詞を問う問題、動詞を問う問題 第9回 時間を問う問題、人物を問う問題 第10回 WH疑問文、質問の3タイプ 第11回 全体を問う問題、詳細を問う問題 第12回 推測して答える問題、同じような意味を持つ語 第13回 二つの文章を読む問題(1)(2) 第14回 TOEICリーディング小模擬試験(2) 第15回 期末試験		
進め方	第2回に米語母音を中心に発音とフォニックスの初歩を速習。第3回にTOEICリーディング小模擬試験を行う。第4回以降は出題タイプごとの問題文を意味の固まりで区切り、その区切りごとに逆戻りせずに音読と訳出。第14回に再びTOEIC小模擬試験を行い、解き方が変わったことを確認。毎回の授業でポキャブラリーを中心にミニテストをします。		
テキスト	Vital Skills for the TOEIC Test: Reading	参考文献	“Instant Vocabulary” または「ビジネス英単語倍増法」
評価方法	出席:20% 平常ミニテスト:30% 期末試験:50%		

実務英語		通年 4 単位	2年
ビジネス英語入門		飯野 義一 (いいの よしかず)	
ねらい	ビジネスの様々な局面に英語で対応できるようになることを目指します。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 英語発音の基礎 第3回 手紙 第4回 ファックス 第5回 電子メール 第6回 電話 第7回 面会の申し入れ 第8回 ホテルの予約 第9回 オフィスの移転通知、支店の開設案内 第10回 レセプションへの招待 第11回 アンケートの回答依頼 第12回 資料の送付依頼 第13回 慶弔 第14回 会議の通知 第15回 前期試験	【後期】 第1回 議事録 第2回 物品の購入 第3回 社内研修の案内、社外研修の報告 第4回 日程の中間報告 第5回 引合い(1) 第6回 引合い(2) 第7回 注文 第8回 注文(続き) 第9回 代金の回収 第10回 クレームと調整 第11回 履歴書 第12回 応募の手紙 第13回 推薦状、面接 第14回 面接結果の通知 第15回 後期試験	
進め方	第2回に米語母音を中心に発音とフォニックスの初歩を速習。第3回以降はビジネス文を意味の固まりで区切り、その区切りごとに逆戻りせずに音読と訳出をしていきます。毎回の授業でボキャブラリーを中心にミニテストをします。		
テキスト	Essentials of Global Business English	参考文献	「ビジネス英単語倍増法」または「Instant Vocabulary」
評価方法	出席:20% 平常ミニテスト:30% 期末試験:50%		

時事英語		通年 4 単位	1・2年
時事英語入門		飯野 義一 (いいの よしかず)	
ねらい	様々な分野の英語ニュースが読解できるようになることを目指します。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 英語発音の基礎 第3回 インド、英語力で開く成功への道 第4回 温暖化問題に朗報? CO2を吸収する海藻 第5回 オバマ対クリントン:日本の勝手運 第6回 街の厄介もの、「パコ(コカイン)」と闘う母親たち 第7回 あなたもメタボ? 第8回 「英国らしさ」でアイデンティティの危機 第9回 ネットカフェ、難民イメージを払拭 第10回 オーストラリア政府、先住民に公式謝罪 第11回 ブログから文学賞へ 第12回 ビレネーの谷、アンドラに吹き荒れる逆風 第13回 北島、平泳ぎで2大会連続2冠を達成 第14回 多民族国家スリナムで国語探し 第15回 前期試験	【後期】 第1回 ブータン、史上初の総選挙 第2回 カイロは毎日が喧騒の渦の中 第3回 海外ブランドのロゴマークに弱い中国の親たち 第4回 サウジの男はラクダにメロメロ 第5回 ミツ星がそれほど好きではない東京 第6回 キューバ、新体制で規制緩和 第7回 万能細胞の研究で日本が一歩リード 第8回 パスポート不要で行き来するヨーロッパ 第9回 緊張緩和? NYフィルが北朝鮮で公演 第10回 スパイしなくてもロシアで商売成功 第11回 フランスとイギリス、和睦する 第12回 人間と共存するロボット 第13回 英字新聞から(記事未定) 第14回 英字新聞から(記事未定) 第15回 後期試験	
進め方	第2回に米語母音を中心に発音とフォニックスの初歩を速習。第3回以降はニュース文を意味の固まりで区切り、その区切りごとに逆戻りせずに音読と訳出をしていきます。毎回の授業でボキャブラリーを中心にミニテストをします。		
テキスト	English through the News Media	参考文献	「Instant Vocabulary」または「ビジネス英単語倍増法」
評価方法	出席:20% 平常ミニテスト:30% 期末テスト:50%		

時事英語		通年 4 単位	1・2年
新聞英語の入門講座		高野 嘉明 (たかの よしあき)	
ねらい	英字新聞の記事のうち、日本で直前に起こった、または今起きている最新の出来事を扱っている記事を教材とし、記事の種類、記事の構成、見出し・書き出し・本文の特徴など、英字新聞についての基本的な事柄を学びます。また、各々の記事に関する歴史・社会・文化的背景についても考えます。TOEICのReading部門の対策にもなるでしょう。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 前期分のガイダンス 第2回 英字新聞の特徴(1) 第3回 英字新聞の特徴(2) 第4回 新聞記事の構成(1) 第5回 新聞記事の構成(2) 第6回 見出しの特徴：現在形の用法 第7回 見出しの特徴：動詞の省略 第8回 見出しの特徴：冠詞の省略 第9回 見出しの特徴：to不定詞の用法 第10回 見出しの特徴：現在・過去分詞の用法 第11回 見出しの特徴：句読点の用法 第12回 見出しの特徴：省略語の多用 第13回 見出しの特徴：短い語の多用 第14回 前期分のまとめ 第15回 前期定期試験	<p>【後期】</p> 第1回 後期分のガイダンス 第2回 新聞英語の特徴：ハイフンの多用 第3回 新聞英語の特徴：複合語の多用 第4回 新聞英語の特徴：略語・短縮語の多用 第5回 新聞英語の特徴：同格表現の多用 第6回 新聞英語の特徴：that節の多用 第7回 新聞英語の特徴：無生物主語の多用 第8回 新聞英語の特徴：所有格の多用 第9回 新聞英語の特徴：分詞構文の多用 第10回 新聞英語の特徴：前置詞の省略 第11回 新聞英語の特徴：能動態の多用 第12回 新聞英語の特徴：動名詞の多用 第13回 新聞英語の特徴：文修飾副詞の多用 第14回 後期分のまとめ 第15回 後期定期試験	
進め方	日本の最新の出来事を扱っている、政治・経済・社会・文化・芸能・スポーツなど様々な種類の記事を教材としますので、毎回、次週分のプリントを配布して予習をしてきてもらい、「授業計画」に示されている各回のテーマを中心にしつつ、記事全体の内容についても細かくみていきたいと思います。		
テキスト	特には使用しません。	参考文献	必要に応じて授業中に適宜紹介します。
評価方法	出席:30% 授業への参加度:10% 前期レポート:10% 後期定期試験:50%		

英文情報処理		前期 2 単位	1・2年
コンピュータ・リテラシー		飯田 千代 (いいだ ちよ)	
ねらい	コンピュータは通信技術の進歩によって、私達の生活に大きな影響を与えている。本講座は、講義とパーソナル・コンピュータを使っての実習を通して、情報処理の基礎的な知識と技術を習得するとともに、科学技術の進歩に必ずつきまとう“光と影”についての理解を目的とする。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス、利用者登録等実習環境準備 第2回 講義：コンピュータの基礎知識 第3回 コンピュータの基本操作 第4回 ワープロ実習（1）文字入力の基礎、文章の編集 第5回 インターネット実習（1） 第6回 インターネット実習（2） 第7回 ワープロ実習（2）文字飾り 第8回 ワープロ実習（3）課題演習 第9回 ワープロ実習（4）課題演習 第10回 ワープロ実習（5）郵便処理 第11回 ワープロ実習（6）課題演習 第12回 画像処理 第13回 ワープロ実習（7）画像の貼り付け 第14回 パワーポイント実習 第15回 課題演習		
進め方	コンピュータの基礎知識に関して講義した後実習に入る。実習では解説に従って実際に操作し、まとめの課題演習をおして技術を身につける。		
テキスト	情報処理講義（宮田雅智・宮治裕著 同文書院）	参考文献	随時紹介する。
評価方法	実習課題:80% 出席:20%		

英文情報処理		後期 2 単位	1・2年
コンピュータ・リテラシー		飯田 千代 (いいた ちよ)	
ねらい	コンピュータは通信技術の進歩によって、私達の生活に大きな影響を与えている。本講座は、講義とパーソナル・コンピュータを使っての実習を通して、情報処理の基礎的な知識と技術を習得するとともに、科学技術の進歩に必ずつきまとう“光と影”についての理解を目的とする。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス、利用者登録等実習環境準備 第2回 講義：コンピュータの基礎知識 第3回 コンピュータの基本操作 第4回 ワープロ実習（1）文字入力の基本、文章の編集 第5回 インターネット実習（1） 第6回 インターネット実習（2） 第7回 ワープロ実習（2）文字飾り 第8回 ワープロ実習（3）課題演習 第9回 ワープロ実習（4）課題演習 第10回 ワープロ実習（5）罫線処理 第11回 ワープロ実習（6）課題演習 第12回 画像処理 第13回 ワープロ実習（7）画像の貼り付け 第14回 パワーポイント実習 第15回 課題演習		
進め方	コンピュータの基礎知識に関して講義した後実習に入る。実習では解説に従って実際に操作し、まとめの課題演習をとおして技術を身につける。		
テキスト	情報処理講義（宮田雅智・宮治裕著 同文書院）	参考文献	随時紹介する。
評価方法	実習課題：80% 出席：20%		

英文情報処理		前期 2 単位	1・2年
英語を学ぶ人の情報処理入門		齋藤 真弓 (さいとう まゆみ)	
ねらい	英語を学ぶ人達にとって、コンピュータは英文ワープロ、電子メールの利用、インターネットによる情報検索・収集など限りなく利用価値がある。本講座は英文文書作成に關しての知識を学び、日本語ワープロ、パワーポイント等を使って英文文書の作成方法を実習する。また英文のタッチタイピングを学ぶこともできる。		
授業計画	【前期】 第1回 コンピュータ基礎1 学内外からの利用・メールの設定 第2回 コンピュータ基礎2 ファイル操作 Touch Typing練習 第3回 英文の入力（短文） Punctuation Rule 第4回 英文の入力（長文） Paragraph 行間隔 テスト 第5回 英文・日本語の作成 (The Bridges of Madison County) 第6回 インターネット・情報検索 (Oscar Wilde' s epigrams) 第7回 英文の校正記号 表の作成 図の利用 第8回 テンプレートの利用 Office Memo 第9回 英文ビジネスレターの知識1 Business Letter Format 第10回 英文ビジネスレターの知識2 Personal Business Letter 第11回 英文レポート作成の知識 Footnotes 英語の略語 第12回 パワーポイントの基礎 第13回 エクセルを使った表計算基礎（関数やグラフ） 第14回 エクセルを使った表計算（英文） 第15回 授業のまとめ		
進め方	キーボードを見ないで入力する方法（タッチタイピング）実習は小テストを行いながら、効率よく進めていく。毎回新しい課題を行い、進度は速いが、必ず力がつくので頑張ってもらいたい。課題はすべて添削して返却する。受講生への連絡は、電子メールにより行い、授業外の時間でも質問などを受付ける。		
テキスト	『Wordでつくる英文文書+PowerPoint』（同友館）	参考文献	『ウェブスター ビジネス英語事典』（研究社出版）
評価方法	課題：60% テスト：30% 平常点：10%		

英文情報処理		後期 2 単位	1・2年
英語を学ぶ人の情報処理入門		齋藤 真弓（さいとう まゆみ）	
ねらい	英語を学ぶ人達にとって、コンピュータは英文ワープロ、電子メールの利用、インターネットによる情報検索・収集など限りなく利用価値がある。本講座は英文文書作成に関する知識を学び、日本語ワープロ、パワーポイント等を使って英文文書の作成方法を実習する。また英文のタッチタイピングを学ぶこともできる。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 コンピュータ基礎1 学内外からの利用・メールの設定</p> <p>第2回 コンピュータ基礎2 ファイル操作 Touch Typing練習</p> <p>第3回 英文の入力(短文) Punctuation Rule</p> <p>第4回 英文の入力(長文) Paragraph 行間隔 テスト</p> <p>第5回 英文・日本語の作成 (The Bridges of Madison County)</p> <p>第6回 インターネット・情報検索 (Oscar Wilde' s epigrams)</p> <p>第7回 英文の校正記号 表の作成 図の利用</p> <p>第8回 テンプレートの利用 Office Memo</p> <p>第9回 英文ビジネスレターの知識1 Business Letter Format</p> <p>第10回 英文ビジネスレターの知識2 Personal Business Letter</p> <p>第11回 英文レポート作成の知識 Footnotes 英語の略語</p> <p>第12回 パワーポイントの基礎</p> <p>第13回 エクセルを使った表計算基礎(関数やグラフ)</p> <p>第14回 エクセルを使った表計算(英文)</p> <p>第15回 授業のまとめ</p>		
進め方	キーボードを見ないで入力する方法(タッチタイピング)実習は小テストを行いながら、効率よく進めていく。毎回新しい課題を行い、進度は速いが、必ず力がつくので頑張ってもらいたい。課題はすべて添削して返却する。受講学生への連絡は、電子メールにより行い、授業外の時間でも質問などを受付ける。		
テキスト	『Wordでつくる英文文書+PowerPoint』(同友館)	参考文献	『ウェブスター ビジネス英語事典』(研究社出版)
評価方法	実習課題:60% テスト:30% 平常点:10%		